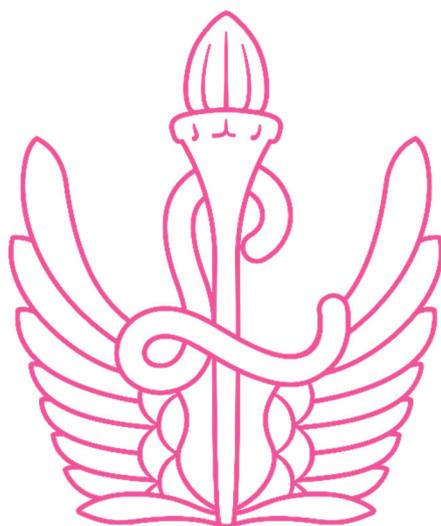


研究白書

2025

集計対象期間：2016年度～2024年度



2026年3月10日

東京外国語大学

目次

はじめに.....	4
第1章 研究者	6
1-1 研究者数（本務者）の推移.....	6
1-2 教員の内訳（2025年5月1日現在）.....	7
1-3 本務教員に占める40歳未満教員の割合の推移.....	9
1-4 女性教員比率の推移.....	10
第2章 研究予算	12
2-1 セグメント別 研究経費の推移.....	12
2-2 国立大学の財務分析比率（研究分野）.....	13
第3章 外部資金	16
3-1 科研費.....	16
3-1-1 受入金額.....	16
3-1-2 受入件数.....	19
3-1-3 採択率.....	26
3-1-4 科研費保有数.....	27
3-1-5 2024年度 実施課題一覧.....	28
3-2 受託研究・共同研究・受託事業.....	39
3-2-1 受託研究.....	39
3-2-2 共同研究.....	41
3-2-3 受託事業.....	43
3-3 寄附金.....	44
第4章 研究業績一覧	45
4-1 研究業績数の推移.....	45
4-2 大学院総合国際学研究院.....	46
4-2-1 査読論文等.....	46
4-2-2 書籍.....	49

4-3	大学院国際日本学研究院	51
4-3-1	査読論文等	51
4-3-2	書籍.....	52
4-4	世界言語社会教育センター	53
4-4-1	査読論文等	53
4-4-2	書籍.....	54
4-5	アジア・アフリカ言語文化研究所	55
4-5-1	査読論文等	55
4-5-2	書籍.....	57

留意事項

- 基本的には2024年度までの数値を使用しておりますが、一部注釈付きのものは2025年5月1日現在の数値を使用しております。

はじめに

2022年度から第4期中期目標・中期計画期間が始まりました。本学は第4期中期計画として「(18) 透明性の高い法人運営の実現」「(21) 自律的な点検・評価」「(22) ステークホルダーとの対話」を定めています。

これらの中期計画の達成に向けて、本学では2022年度より研究白書を作成し公表しております。研究白書の特徴は、①研究に関するデータを集約化したこと、②可能な限り情報をグラフ化したこと、③研究課題・研究業績を一覧化したことにあります。

これにより期待できる効果は以下のとおりです。

① 研究に関するデータを集約化したことによる効果

研究に関するデータは、2022年度以前から本学ウェブサイト等で公開しておりましたが、様々な情報が異なる場所に点在していたことに加え、年度ごとの数値の推移などを把握することが困難でした。こうした点を踏まえ、研究白書では、研究に関するデータを集約したことで、関連データをまとめて確認することや経年変化を見ることが容易になりました。

② データをグラフ化したことによる効果

データを可能な限りグラフ化したことにより、情報を視覚的にわかりやすく簡単に把握することが可能になりました。なお、第3期中期目標期間の開始年度（2016年度）からの情報を掲載することで、経年による変化が確認できるようになったことに加え、他大学等のデータも取り入れることで、本学と他大学等との比較を行うことが可能となっております。

③ 研究課題・研究業績を一覧化したことによる効果

研究課題・研究業績を一覧化したことにより、各研究者が行っている具体的な研究内容が見える化しました。このことが、学内的には研究者間の連携や交流の活発化につながり、学外的には本学における研究活動を広く知ってもらうことのきっかけになると考えております。

本白書の作成を通じて、研究に関するデータの可視化を行い、「自律的な点検・評価」により研究活動の改善やさらなる発展に結び付けていくとともに、本白書の公表により「透明性の高い法人運営」と「ステークホルダーとの対話」につなげていく所存です。

2016 年度以降の研究組織改革

- 2017 年度 現代アフリカ地域研究センター（ASC-TUFS）発足
- 2022 年度 学際研究共創センター（TReND センター）発足
TUFS フィールドサイエンスコモンズ（TUFISCo）発足
- 2023 年度 TUFS 地域研究センター（TASC）発足

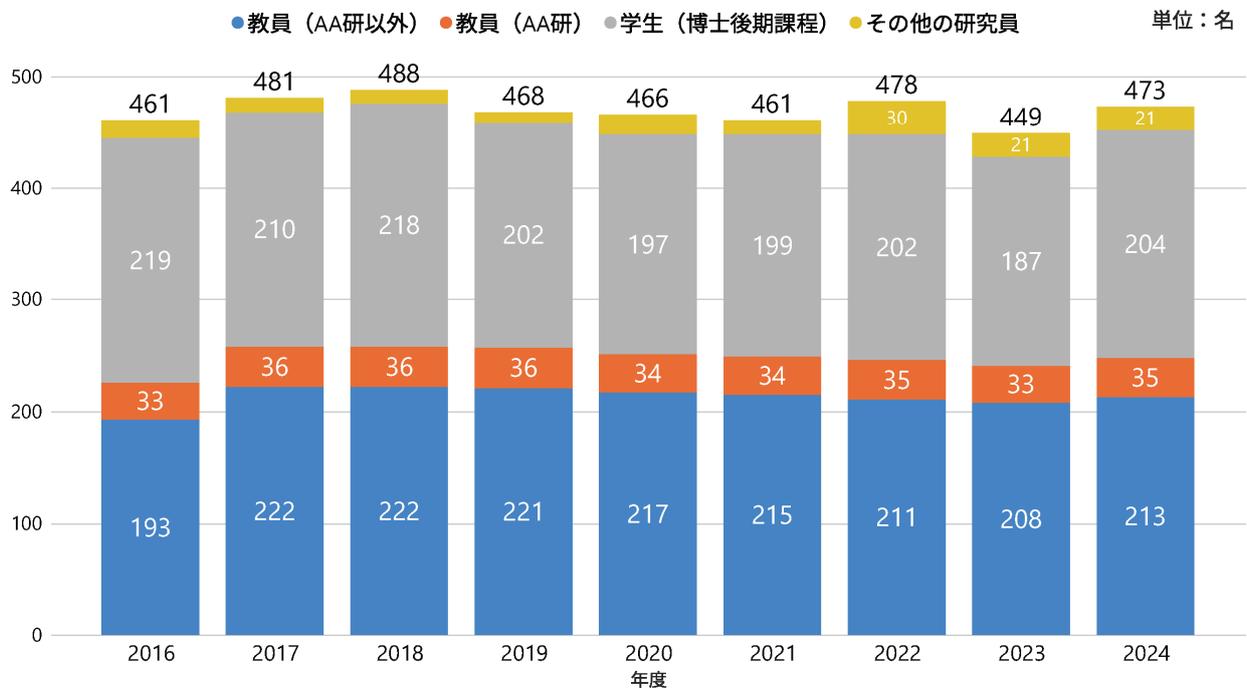
（参考）教育研究組織

2025 年 5 月 1 日時点

学部教育組織	言語文化学部 School of Language and Culture Studies	国際日本研究センター International Center for Japanese Studies	
	国際社会学部 School of International and Area Studies		現代アフリカ地域研究センター African Studies Center
	国際日文学部 School of Japan Studies		南アジア研究センター South Asia Studies Center
大学院教育組織	総合国際学研究科 Graduate School of Global Studies	TUFS地域研究センター TUFS Area Studies Center	
	博士前期課程 Master's Programs	世界言語社会専攻 Global Studies Program	TUFSフィールドサイエンスコモンズ TUFS Field Science Commons
		国際日本専攻 Japan Studies Program	ワールド・ランゲージ・センター World Language Center
	博士後期課程 Doctoral Programs	世界言語社会専攻 Global Studies Doctoral Program	
		国際日本専攻 Japan Studies Doctoral Program	英語学習支援センター English Learning Center
共同サステナビリティ研究専攻 Joint Doctoral Program for Sustainability Research		CEFR-J推進室 CEFR-J Office	
予備教育組織	留学生日本語教育センター Japanese Language Center for International Students	教育情報化支援センター Multimedia and Computer-Aided Education Support Center	
教員組織	大学院総合国際学研究院 Institute of Global Studies	教育情報化支援室 Educational Information Support Office	
	大学院国際日文学研究院 Institute of Japan Studies	オンライン教育支援室 Online Learning Support Team	
	世界言語社会教育センター World Language and Society Education Center	留学支援共同利用センター TUFS Student Mobility Center	
大学附属組織	アジア・アフリカ言語文化研究所 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa	アカデミック・サポート・センター TUFS Academic Support Center	
	情報資源利用研究センター Information Resources Center	国際メディア情報センター TUFS Media Center	
大学附属組織	附属図書館 Library	国際教育支援室 International Education Support Office	
学内共同利用組織	保健管理センター Health Care Center	研究支援組織	
	総合情報コラボレーションセンター Information Collaboration Center	学際研究共創センター Center for Transdisciplinary Research, Networking and Dialogue	
	ハラスメント相談室 Harassment Consultation Office	グローバル・キャリア・センター Global Career Center	
学内研究組織	語学研究所 Institute of Language Research	学生支援組織	
	総合文化研究所 Institute of Transcultural Studies	ボランティア活動スペース Volunteer Action Space	
	海外事情研究所 Institute for Global Area Studies	学生相談室 Student Counseling Room	
	国際関係研究所 Institute of International Relations	TUFSオープンアカデミー TUFS Open Academy	
社会連携等組織	東京外国語大学出版会 TUFS Press	大学図書館 TUFS Archives	
	次世代日本語教育DXセンター Japanese Language Education Digital Innovation Center	国際関係研究所 Institute of International Relations	
	多言語多文化共生センター Center for Intercultural Studies		

第1章 研究者

1-1 研究者数（本務者）の推移



総務省「科学技術研究調査」2017年～2025年の本学回答分（2016年度～2024年度現在の状況について回答）をもとに作成

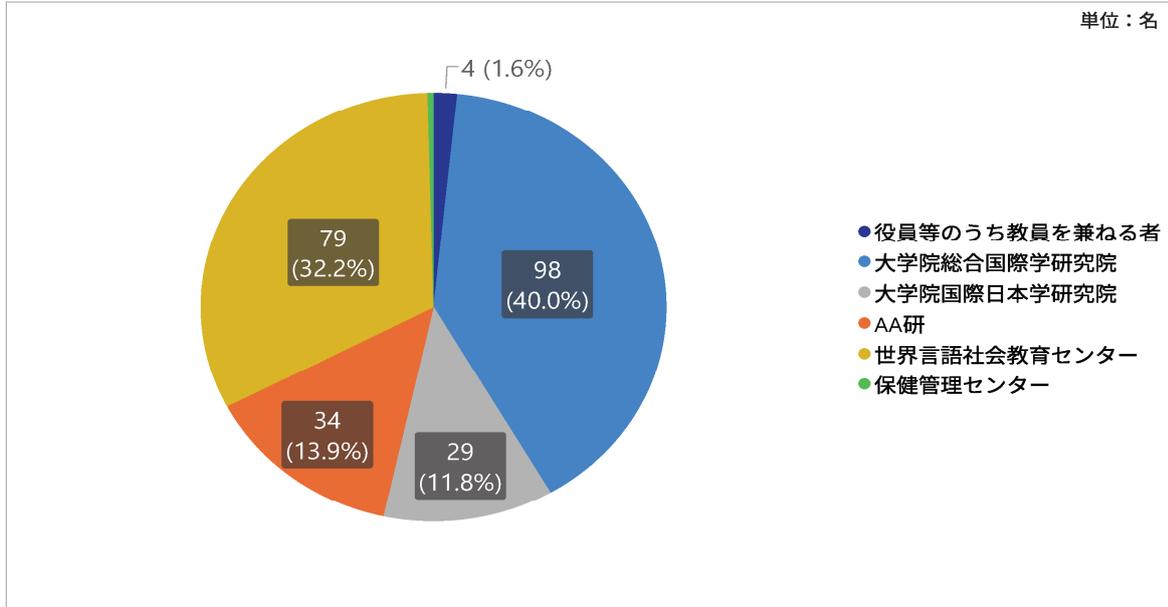
※注：「AA研」はアジア・アフリカ言語文化研究所を指す（以下「AA研」）

単位：名

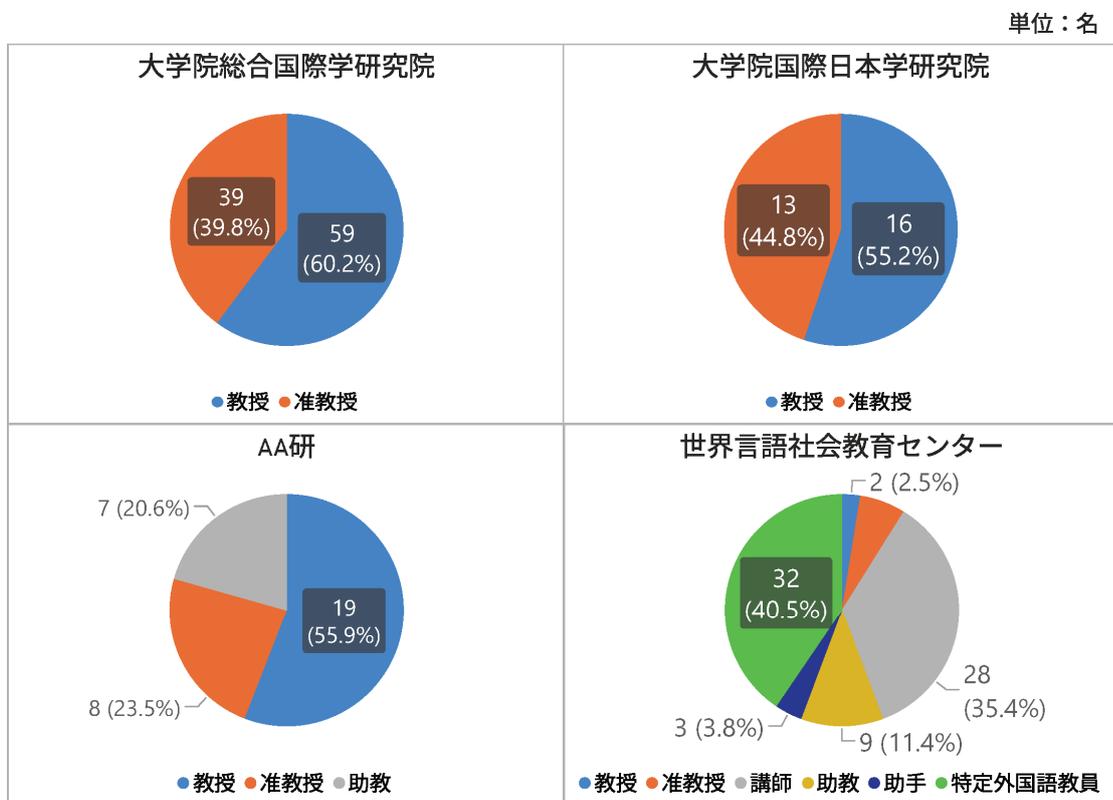
項目名	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
▲ 教員（AA研以外）	193	222	222	221	217	215	211	208	213
教員（AA研）	33	36	36	36	34	34	35	33	35
学生（博士後期課程）	219	210	218	202	197	199	202	187	204
その他の研究員	16	13	12	9	18	13	30	21	21
本務者合計	461	481	488	468	466	461	478	449	473

1-2 教員の内訳 (2025年5月1日現在)

1-2-1 部局別



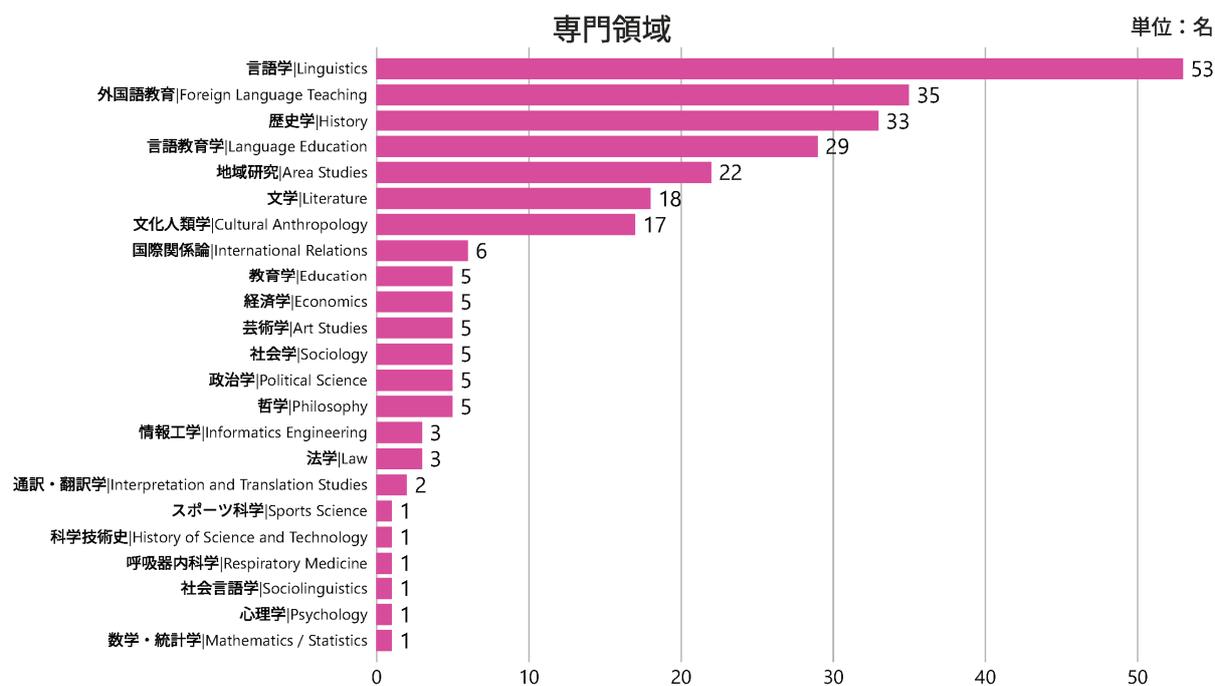
1-2-2 職位別



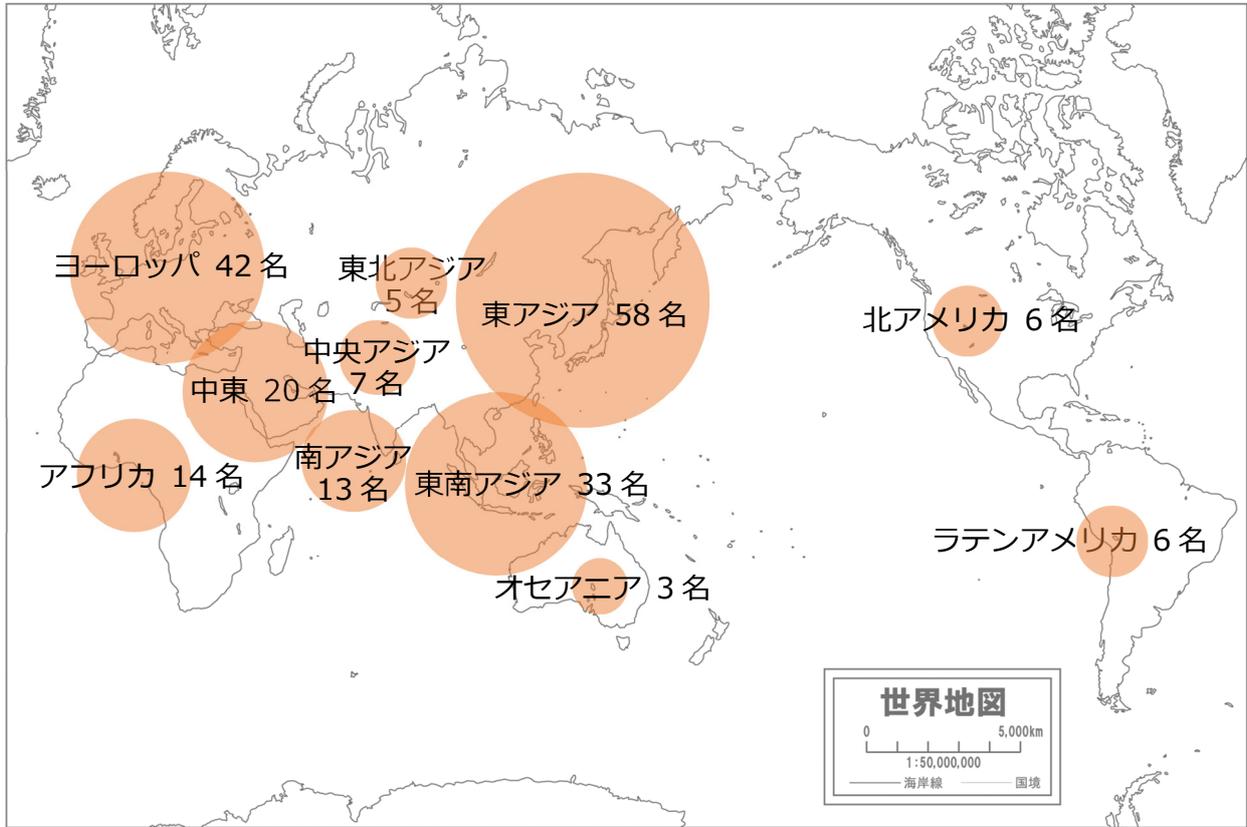
単位：名

所属／職位	教授	准教授	講師	助教	助手	特定外国語教員	合計
▲ 役員等のうち教員を兼ねる者	4	0	0	0	0	0	4
大学院総合国際学研究院	59	39	0	0	0	0	98
大学院国際日本学研究院	16	13	0	0	0	0	29
AA研	19	8	0	7	0	0	34
世界言語社会教育センター	2	5	28	9	3	32	79
保健管理センター	1	0	0	0	0	0	1
教員合計	101	65	28	16	3	32	245

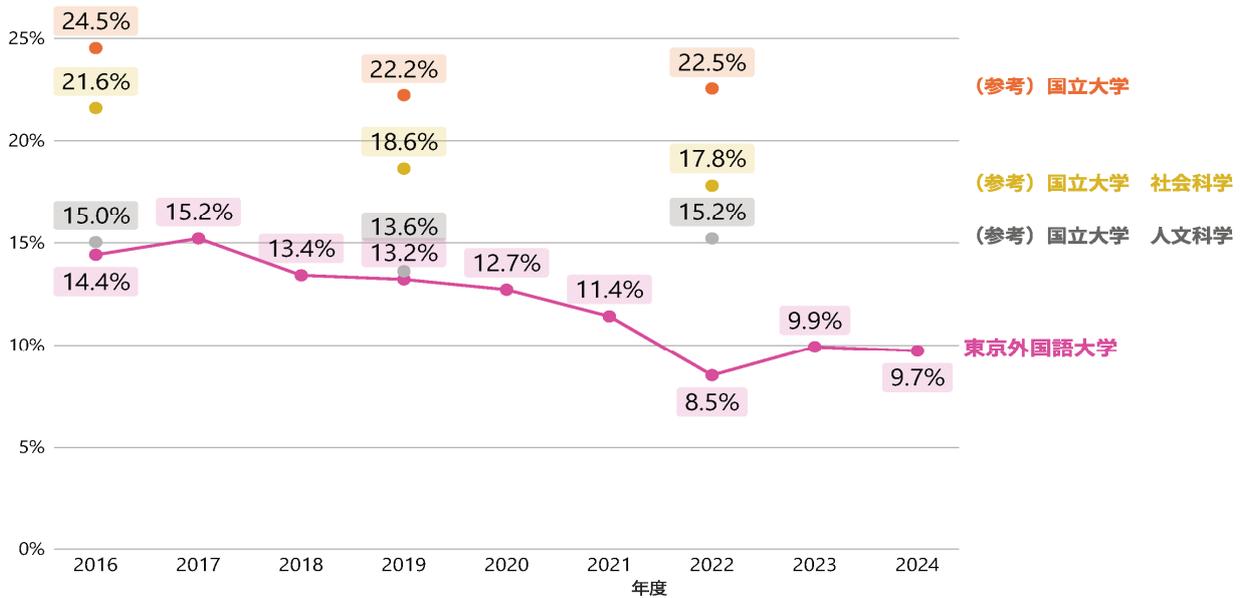
1 - 2 - 3 分野別



専門地域



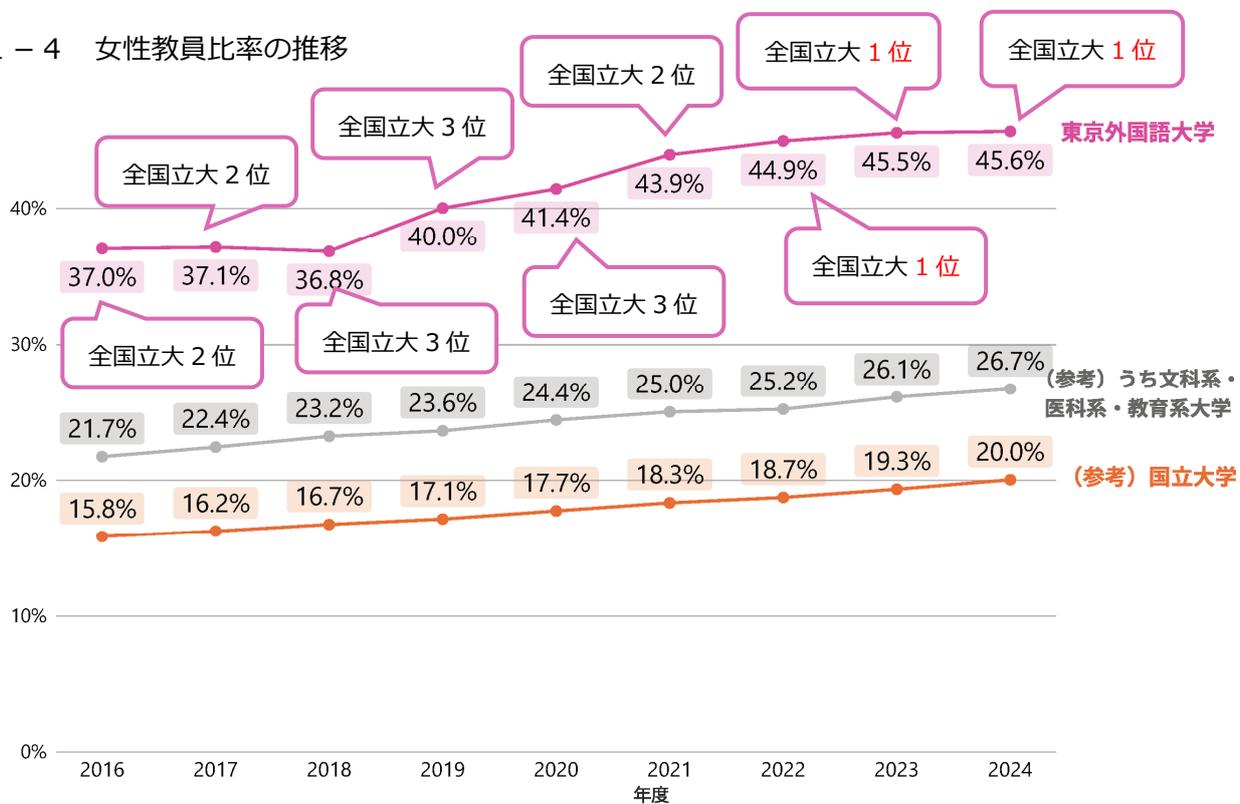
1-3 本務教員に占める40歳未満教員の割合の推移



文部科学省「学校教員統計調査」及び本学ウェブサイトより作成
 (https://www.tufs.ac.jp/abouttufs/organization/personnel.html)

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東京外国語大学	14.4%	15.2%	13.4%	13.2%	12.7%	11.4%	8.5%	9.9%	9.7%
(参考) 国立大学	24.5%			22.2%			22.5%		
(参考) 国立大学 社会科学	21.6%			18.6%			17.8%		
(参考) 国立大学 人文科学	15.0%			13.6%			15.2%		

1-4 女性教員比率の推移



※国立大学の特性格別区分について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の 8 区分に分類）を基に、女性教員比率に近い⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学の 3 区分を文科系大学・医科系大学・教育系大学とまとめている。

なお、⑧大学院大学については、設置している専攻の特性に応じて一部を本区分に追加する。

●文科系大学・医科系大学・教育系大学 一覧（22 大学）

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

【⑥医科系大学 4 大学】旭川医科大学、東京医科歯科大学、浜松医科大学、滋賀医科大学

【⑦教育系大学 12 大学】北海道教育大学、宮城教育大学、東京学芸大学、上越教育大学、
愛知教育大学、京都教育大学、大阪教育大学、兵庫教育大学、
奈良教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学、鹿屋体育大学

【⑧大学院大学 のうち本区分に分類される大学 1 大学】政策研究大学院大学

一般社団法人国立大学協会

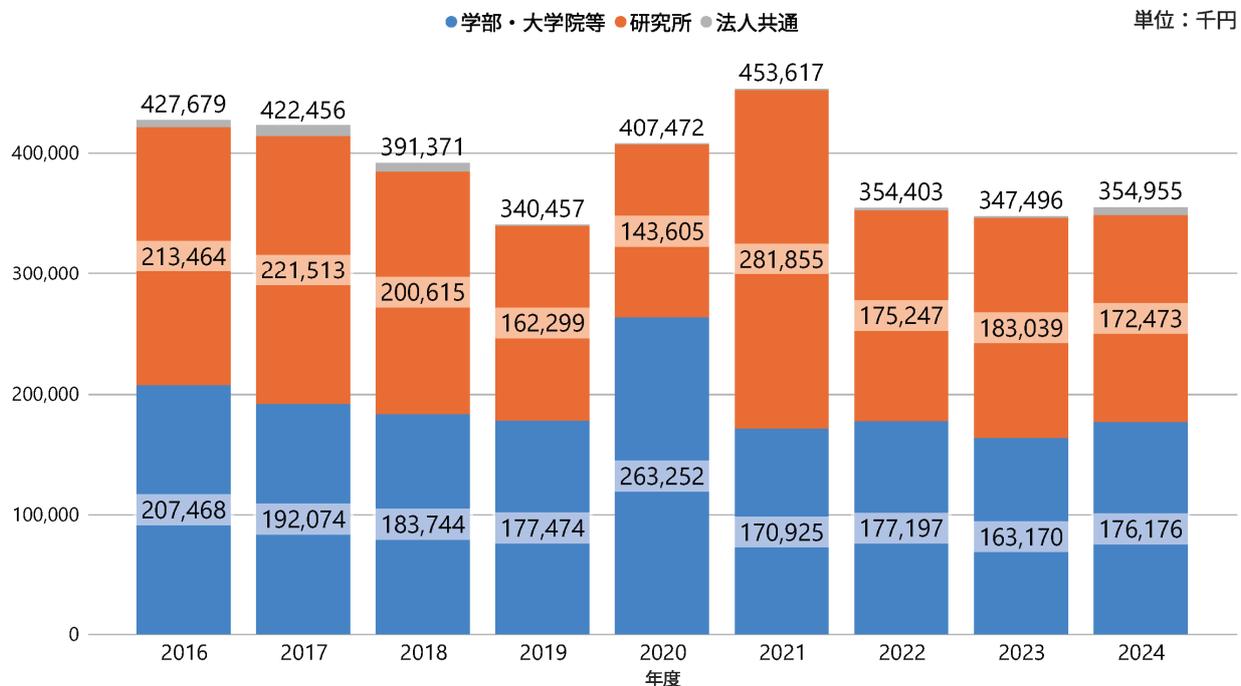
「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第 21 回追跡調査報告書」より作成

(<https://www.janu.jp/janu/gender/>)

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
▲ 東京外国語大学	37.0%	37.1%	36.8%	40.0%	41.4%	43.9%	44.9%	45.5%	45.6%
(参考) 国立大学	15.8%	16.2%	16.7%	17.1%	17.7%	18.3%	18.7%	19.3%	20.0%
(参考) うち文科系・医科系・教育系大学	21.7%	22.4%	23.2%	23.6%	24.4%	25.0%	25.2%	26.1%	26.7%

第2章 研究予算

2-1 セグメント別 研究経費の推移



セグメント	業務内容（構成する組織）
学部・大学院等	2021年度以前：学部、大学院、留学生日本語教育センター 2022年度以降：言語文化学部、国際社会学部、国際日本学部、大学院総合国際学研究科
研究所	アジア・アフリカ言語文化研究所
法人共通	附属図書館、総合情報コラボレーションセンター、保健管理センター、事務局

※各年度 本学の財務諸表「開示すべきセグメント情報」より抜粋

単位：千円

セグメント名/年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
学部・大学院等	207,468	192,074	183,744	177,474	263,252	170,925	177,197	163,170	176,176
研究所	213,464	221,513	200,615	162,299	143,605	281,855	175,247	183,039	172,473
法人共通	6,747	8,869	7,012	684	615	837	1,959	1,287	6,306
合計	427,679	422,456	391,371	340,457	407,472	453,617	354,403	347,496	354,955

2-2 国立大学の財務分析比率（研究分野）

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構では、各国立大学法人の財務諸表、事業報告書及び決算報告書などの公表資料のうち、財務関係の情報について集計・分析を行い、各国立大学法人が財務・経営改善の検討を行う際の参考資料として作成している。

各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性別区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の 8 区分に分類）に基づき、研究分野の財務分析を行う。

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

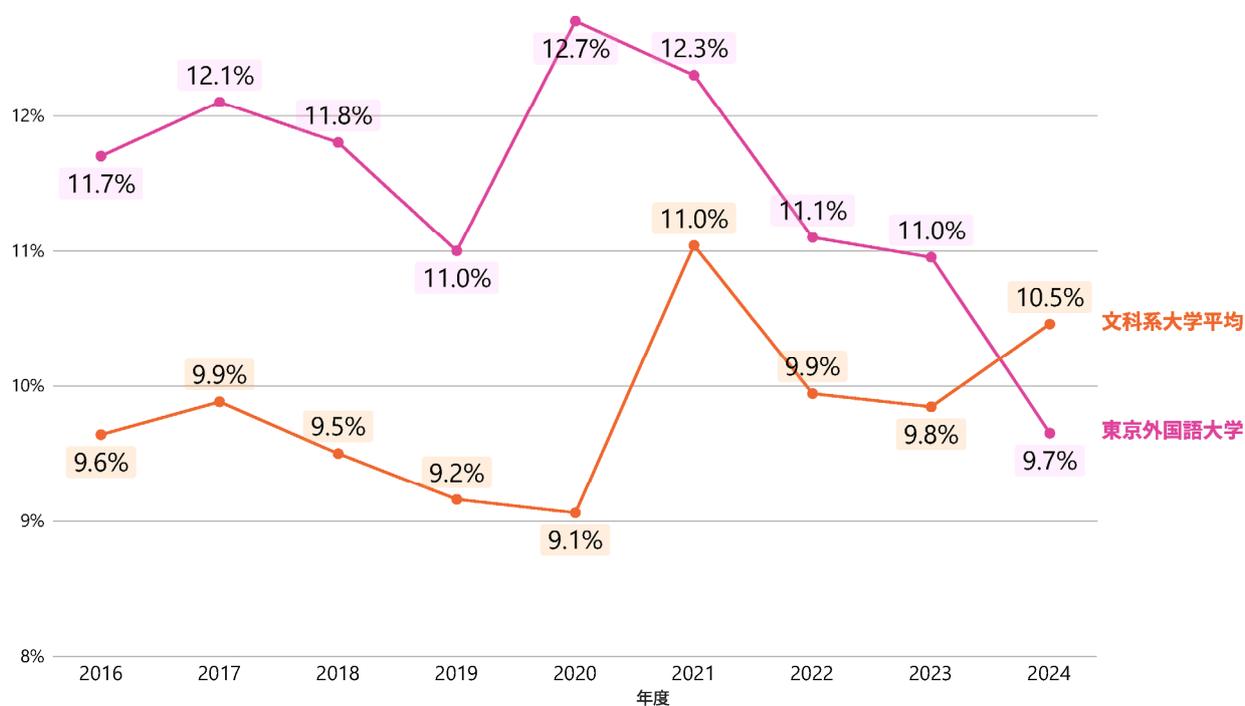
2016～2021 年度：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構「国立大学法人の財務(大学別概要)」(https://www.niad.ac.jp/support/university_finance/summary/)

2022 年度以降：各大学各年度財務諸表より作成

2-2-1 研究経費比率

定義式 = (【損益計算書】研究経費 + 受託研究費 + 共同研究費 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) / (【損益計算書】経常費用 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) × 100

研究活動で消費される経費が大学の経常的な経費に占める割合を示す。この数値が大きいほど、研究活動に使用される資源の割合が高いことを示す。ただし、分子の【損益計算書】研究経費には人件費等が含まれておらず、また研究経費として大学の基盤的研究以外に受託研究及び科研費等による研究で消費される経費を含めている。

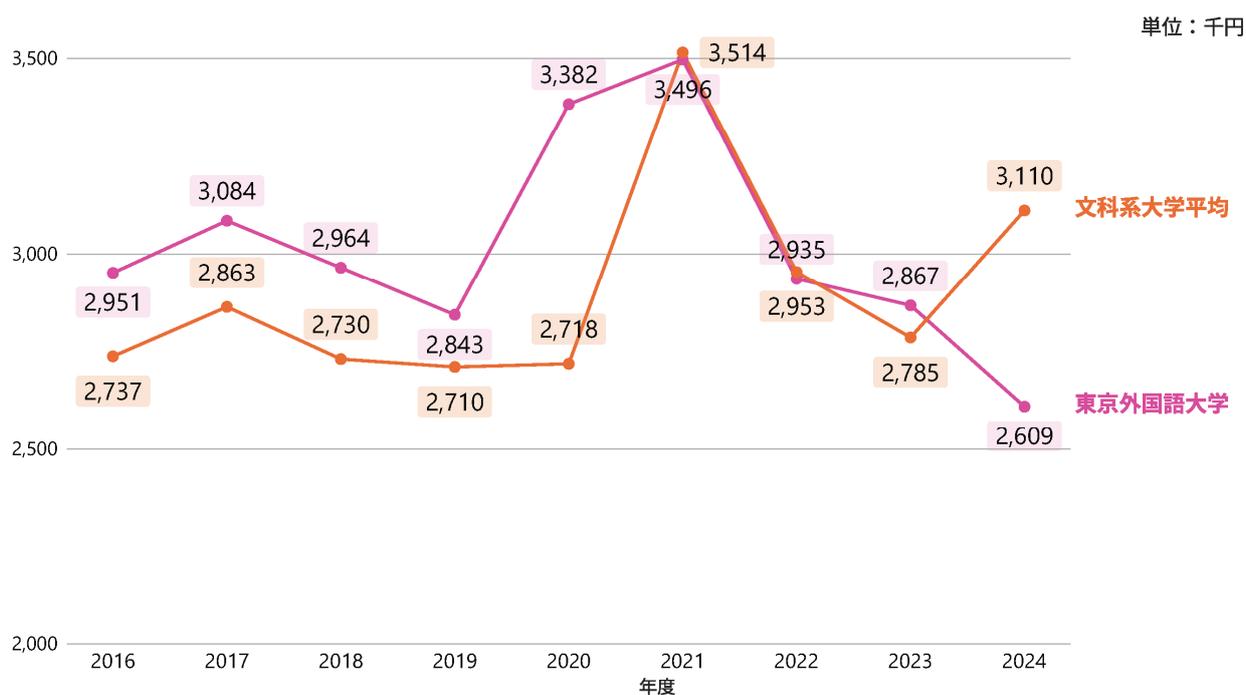


項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東京外国語大学	11.7%	12.1%	11.8%	11.0%	12.7%	12.3%	11.1%	11.0%	9.7%
文科系大学平均	9.6%	9.9%	9.5%	9.2%	9.1%	11.0%	9.9%	9.8%	10.5%

2-2-2 常勤教員一人当たり研究費

定義式 = (【損益計算書】研究経費 + 受託研究費 + 共同研究費 + 【科学研究費補助金の明細】科研費等の直接経費) / (【大学基本情報】教員数(本務者))

常勤教員一人当たりの研究活動を経費面で示す指標。分子の【損益計算書】研究経費には人件費等が含まれておらず、外部資金による研究経費(科研費等に関する附属明細書に掲載されている資金に限定)が含まれている。この数値が大きいほど、研究活動で使用される経費が大きい(財務的に研究活動が盛ん)と解釈できる。ただし、学部・学科や大学院研究科の構成・規模や附属病院の有無によって研究活動に必要とする資金量が異なる。とりわけ、附置研究所を有する大学は高めに算定される可能性があることに注意が必要。



単位：千円

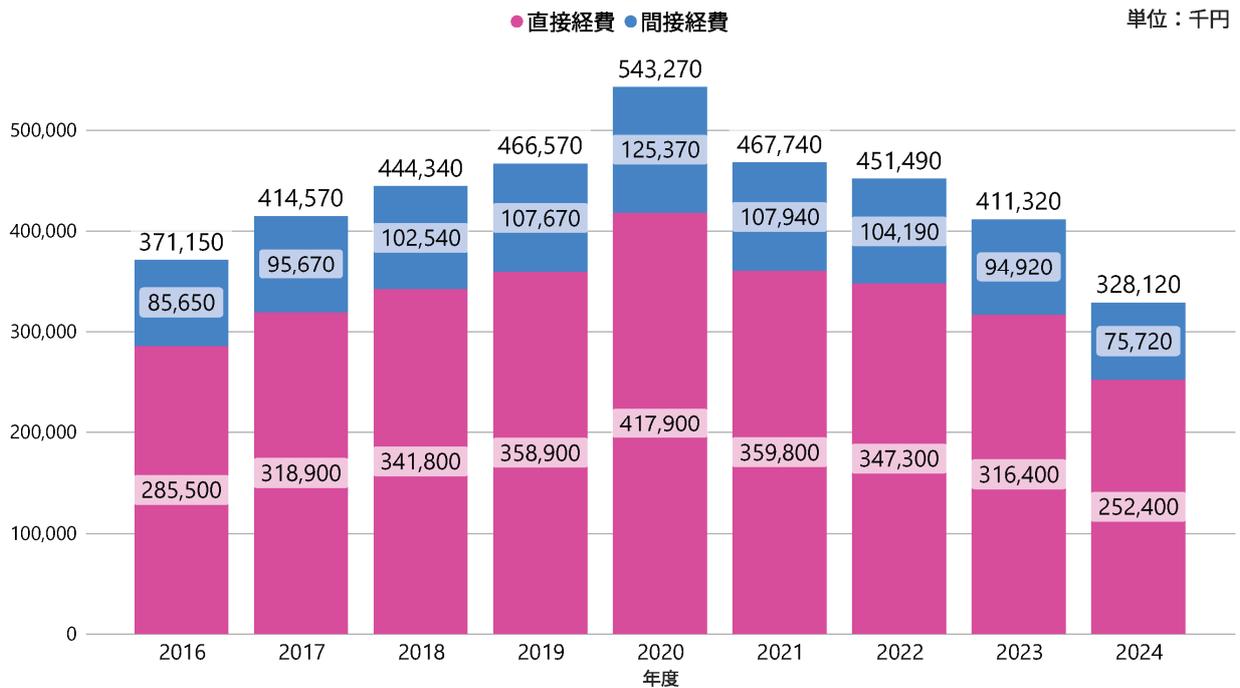
項目名/年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東京外国語大学	2,951	3,084	2,964	2,843	3,382	3,496	2,935	2,867	2,609
文科系大学平均	2,737	2,863	2,730	2,710	2,718	3,514	2,953	2,785	3,110

第3章 外部資金

3-1 科研費

3-1-1 受入金額

(1) 本学

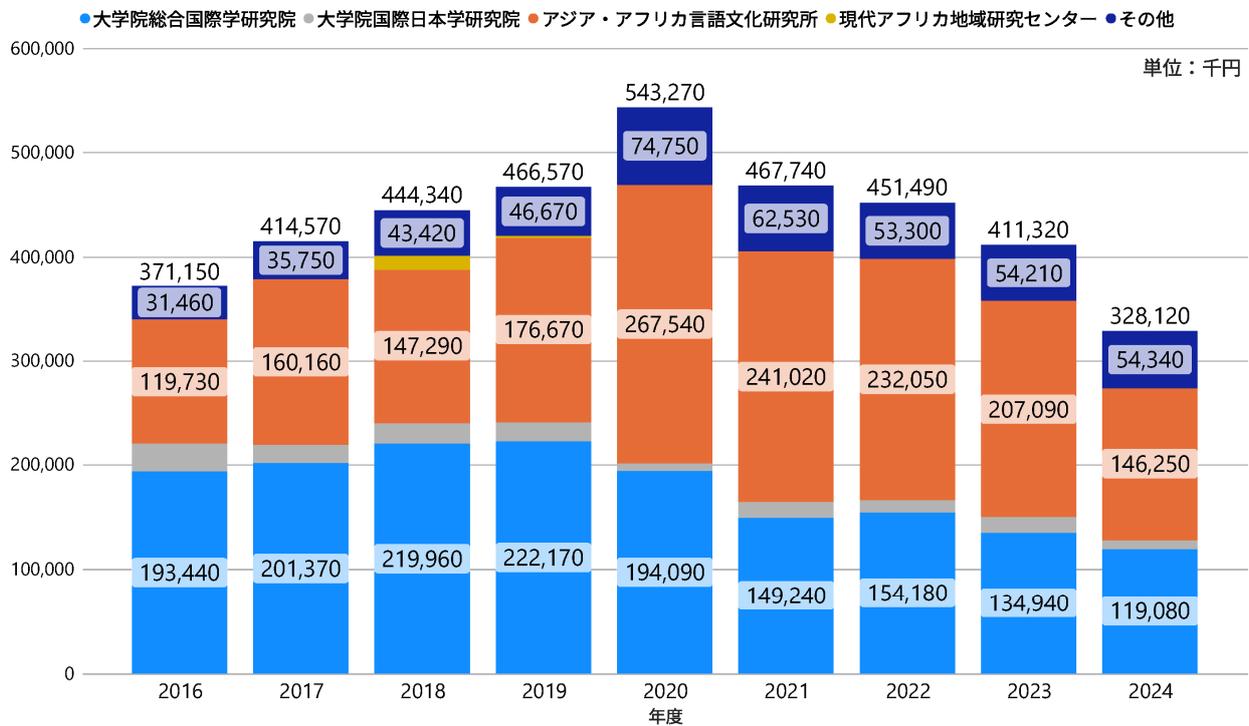


日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2024年度をもとに作成
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
直接経費	285,500	318,900	341,800	358,900	417,900	359,800	347,300	316,400	252,400
間接経費	85,650	95,670	102,540	107,670	125,370	107,940	104,190	94,920	75,720
合計	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490	411,320	328,120

部局別受入金額の推移



※2020年度以降は「現代アフリカ地域研究センター」分は「その他」に含めています。

日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2024年度

(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html) 及び学内資料をもとに作成

単位：千円

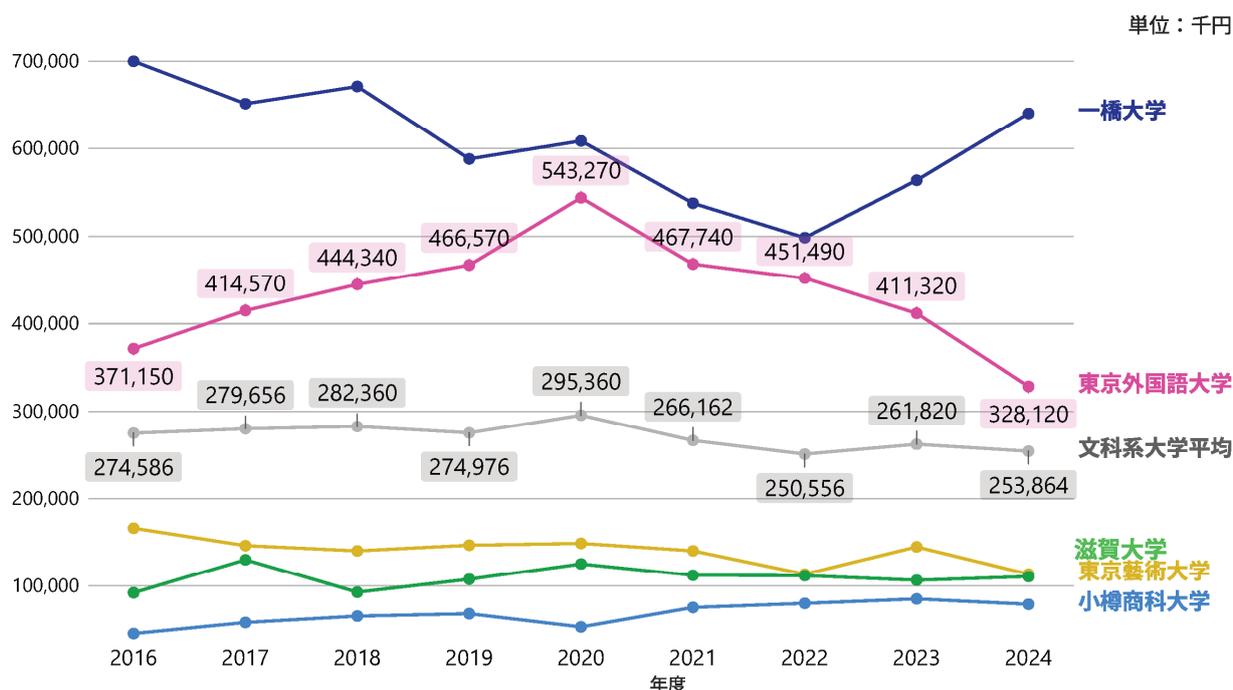
部局名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
大学院総合国際学研究院	193,440	201,370	219,960	222,170	194,090	149,240	154,180	134,940	119,080
大学院国際日本学研究院	26,520	17,290	20,540	19,110	6,890	14,950	11,960	15,080	8,450
アジア・アフリカ言語文化研究所	119,730	160,160	147,290	176,670	267,540	241,020	232,050	207,090	146,250
現代アフリカ地域研究センター	0	0	13,130	1,950					
その他	31,460	35,750	43,420	46,670	74,750	62,530	53,300	54,210	54,340
合計	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490	411,320	328,120

(2) 他大学との比較

※国立大学の文科系大学について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の 8 区分に分類）を基に、⑤文科系大学の 5 大学間で比較を行う。

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学



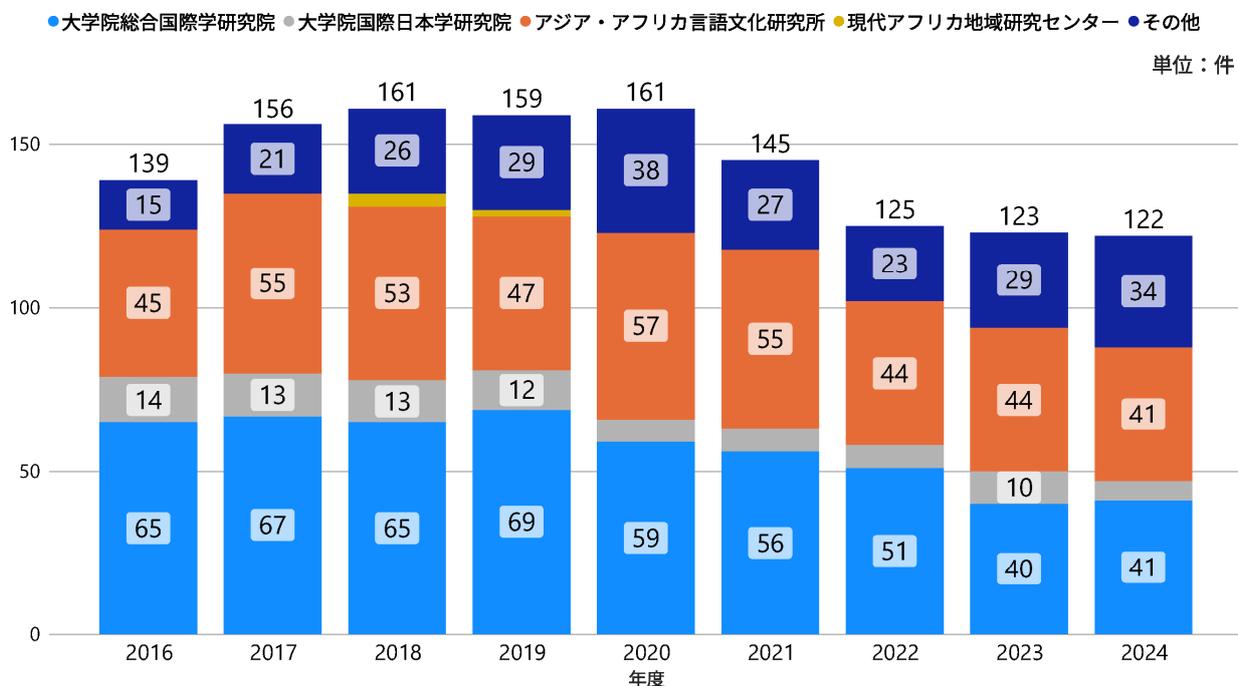
日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016 年度～2024 年度をもとに作成
 (https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

単位: 千円

項目名/年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
小樽商科大学	44,980	57,590	64,870	67,600	52,520	74,750	79,430	84,500	78,390
東京外国語大学	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490	411,320	328,120
東京藝術大学	165,750	145,730	139,750	146,250	148,330	139,750	112,939	144,300	112,970
一橋大学	699,530	650,910	670,670	587,470	608,010	537,030	497,770	563,160	639,730
滋賀大学	91,520	129,480	92,170	106,990	124,670	111,540	111,150	105,820	110,110
文科系大学平均	274,586	279,656	282,360	274,976	295,360	266,162	250,556	261,820	253,864
(参考) 国立大学平均	1,561,951	1,568,953	1,561,298	1,560,501	1,589,521	1,596,235	1,578,559	1,566,287	1,569,417

3-1-2 受入件数

(1) 本学



※2020年度以降は「現代アフリカ地域研究センター」分は「その他」に含めています。

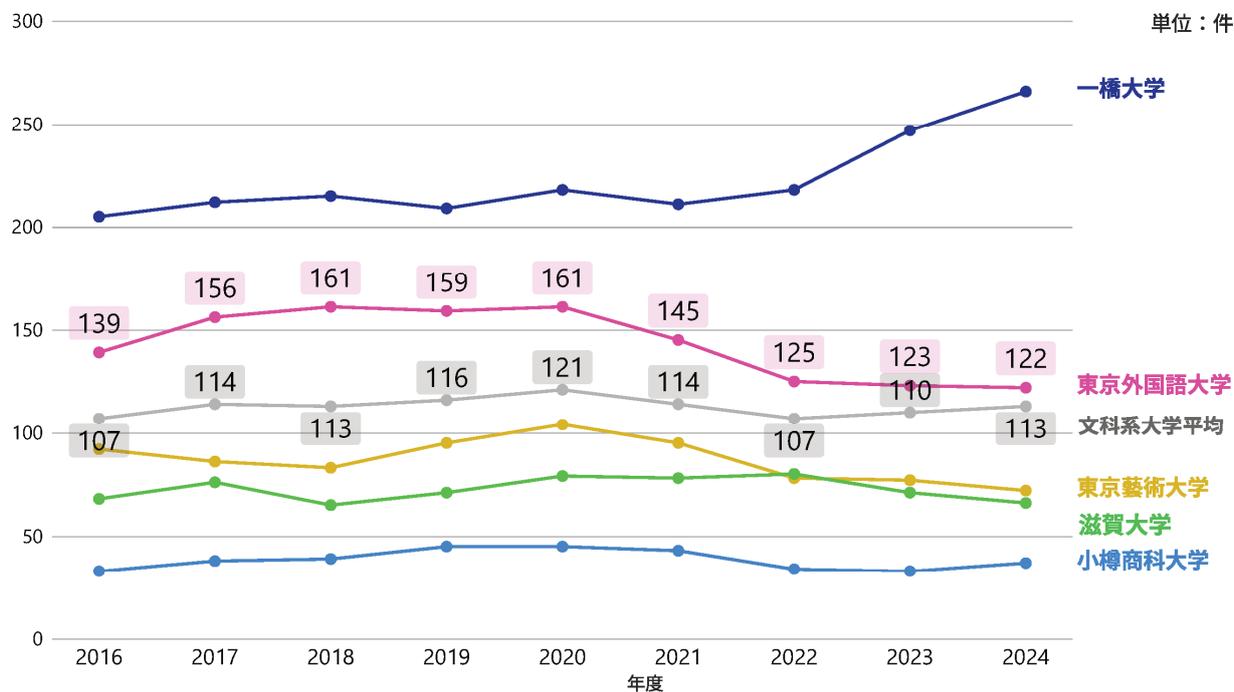
日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2024年度

(https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html) 及び学内資料をもとに作成

単位：件

部局名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
大学院総合国際学研究院	65	67	65	69	59	56	51	40	41
大学院国際日本学研究院	14	13	13	12	7	7	7	10	6
アジア・アフリカ言語文化研究所	45	55	53	47	57	55	44	44	41
現代アフリカ地域研究センター	0	0	4	2					
その他	15	21	26	29	38	27	23	29	34
合計	139	156	161	159	161	145	125	123	122

(2) 他大学との比較



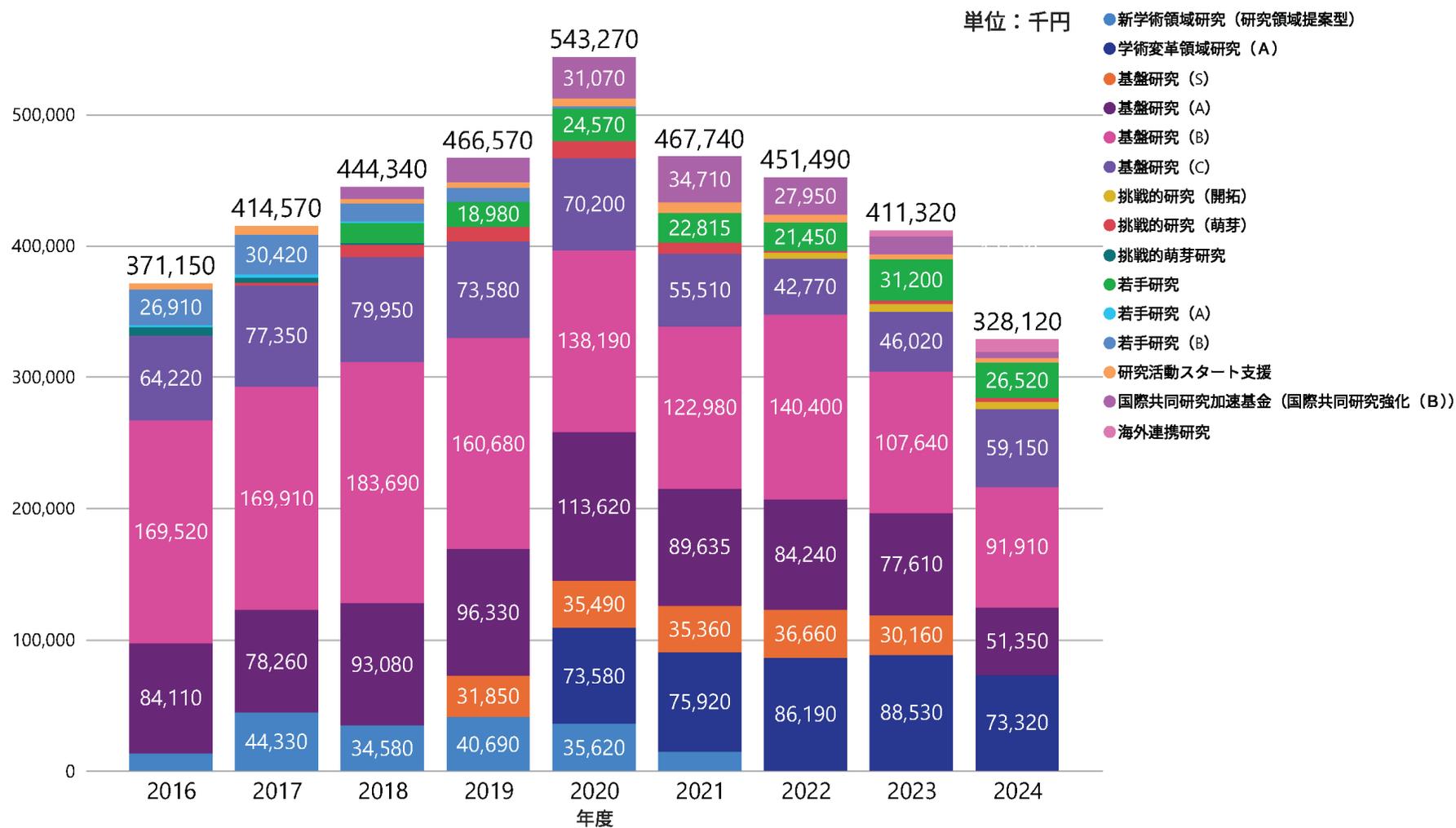
日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2024年度をもとに作成
 (https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

単位：件

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
小樽商科大学	33	38	39	45	45	43	34	33	37
東京外国語大学	139	156	161	159	161	145	125	123	122
東京藝術大学	92	86	83	95	104	95	78	77	72
一橋大学	205	212	215	209	218	211	218	247	266
滋賀大学	68	76	65	71	79	78	80	71	66
文科系大学平均	107	114	113	116	121	114	107	110	113
(参考) 国立大学平均	474	469	460	475	492	496	493	480	470

研究種目別

●研究種目別受入金額の推移

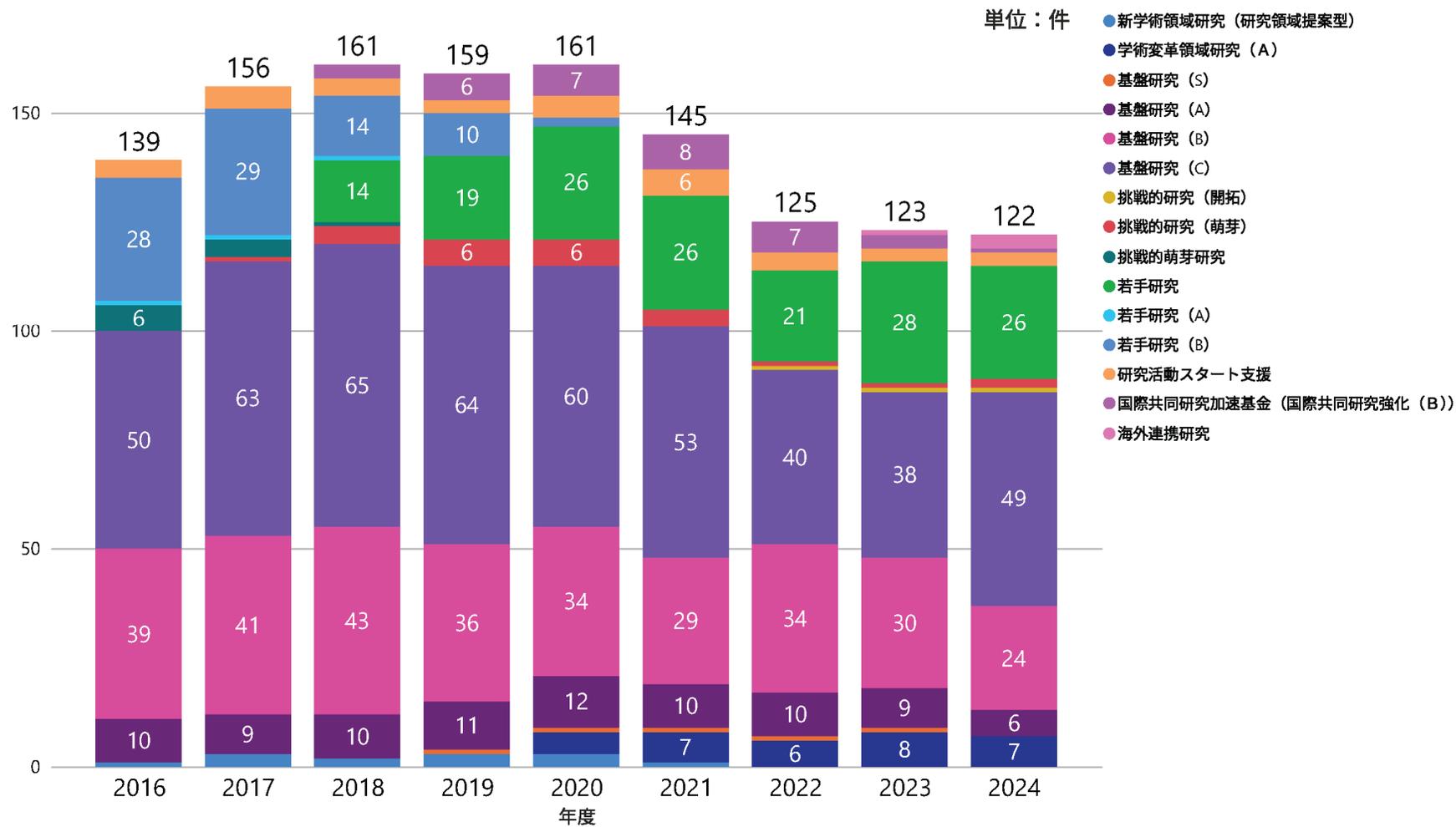


単位：千円

研究種目／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
▲ 新学術領域研究（研究領域提案型）	13,390	44,330	34,580	40,690	35,620	14,560	0	0	0
学術変革領域研究（A）	0	0	0	0	73,580	75,920	86,190	88,530	73,320
基盤研究（S）	0	0	0	31,850	35,490	35,360	36,660	30,160	0
基盤研究（A）	84,110	78,260	93,080	96,330	113,620	89,635	84,240	77,610	51,350
基盤研究（B）	169,520	169,910	183,690	160,680	138,190	122,980	140,400	107,640	91,910
基盤研究（C）	64,220	77,350	79,950	73,580	70,200	55,510	42,770	46,020	59,150
挑戦的研究（開拓）	0	0	0	0	0	0	4,420	5,590	5,330
挑戦的研究（萌芽）	0	2,210	9,620	11,310	13,260	8,320	1,430	2,860	3,120
挑戦の萌芽研究	6,240	3,510	1,170	0	0	0	0	0	0
若手研究	0	0	15,340	18,980	24,570	22,815	21,450	31,200	26,520
若手研究（A）	2,340	2,470	1,300	0	0	0	0	0	0
若手研究（B）	26,910	30,420	13,390	10,660	1,820	0	0	0	0
研究活動スタート支援	4,420	6,110	3,510	4,160	5,850	7,930	5,980	3,770	3,640
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	0	0	8,710	18,330	31,070	34,710	27,950	13,520	4,290
海外連携研究								4,420	9,490
合計	371,150	414,570	444,340	466,570	543,270	467,740	451,490	411,320	328,120

※研究種目の詳細については、「研究種目一覧」（p.25）をご覧ください。

●研究種目別受入件数の推移



単位：件

研究種目／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
新学術領域研究（研究領域提案型）	1	3	2	3	3	1	0	0	0
学術変革領域研究（A）	0	0	0	0	5	7	6	8	7
基盤研究（S）	0	0	0	1	1	1	1	1	0
基盤研究（A）	10	9	10	11	12	10	10	9	6
基盤研究（B）	39	41	43	36	34	29	34	30	24
基盤研究（C）	50	63	65	64	60	53	40	38	49
挑戦的研究（開拓）	0	0	0	0	0	0	1	1	1
挑戦的研究（萌芽）	0	1	4	6	6	4	1	1	2
挑戦の萌芽研究	6	4	1	0	0	0	0	0	0
若手研究	0	0	14	19	26	26	21	28	26
若手研究（A）	1	1	1	0	0	0	0	0	0
若手研究（B）	28	29	14	10	2	0	0	0	0
研究活動スタート支援	4	5	4	3	5	6	4	3	3
国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））	0	0	3	6	7	8	7	3	1
海外連携研究								1	3
合計	139	156	161	159	161	145	125	123	122

日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016年度～2024年度をもとに作成
https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html

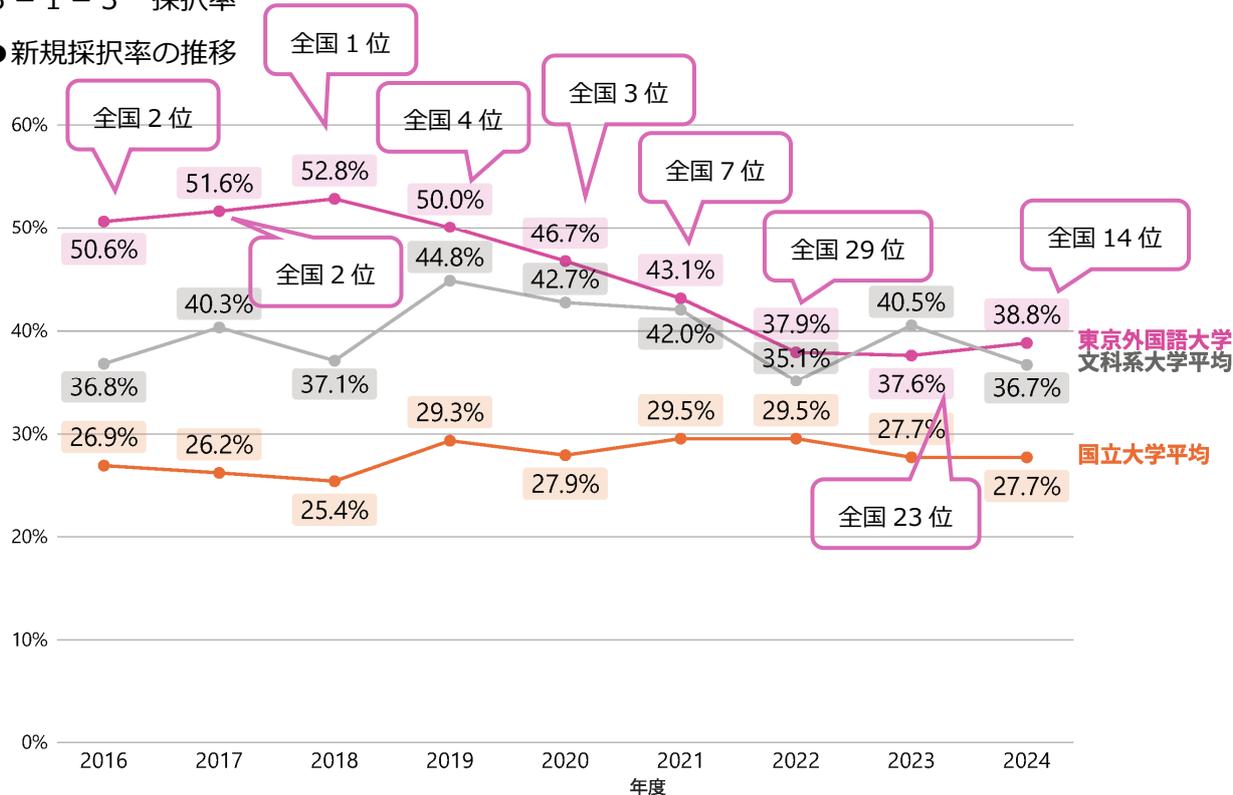
※研究種目の詳細については、「研究種目一覧」（p.25）をご覧ください。

<研究種目一覧>

研究種目	目的・内容	期間	金額
新学術領域研究 (研究領域提案型)	革新的・創造的な学術研究の発展が期待される研究領域であって、多様な研究グループによる有機的な連携の下に新たな視点や手法による共同研究等の推進により、(1) 既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創成を目指すもの、又は(2) 当該領域の格段の発展・飛躍的な展開を目指す研究(その他要件あり)	5年間	単年度当たり1千万円から3億円程度
学術変革領域研究(A)	多様な研究者の共創と融合により提案された研究領域において、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導するとともに、我が国の学術水準の向上・強化や若手研究者の育成につながる研究領域の創成を目指し、共同研究や設備の共用化等の取組を通じて提案研究領域を発展させる研究	5年間	1研究領域単年度当たり5,000万円以上3億円まで(真に必要な場合は3億円を超える応募も可能)
基盤研究(S)	一人又は比較的少人数の研究者が行う独創的・先駆的な研究	原則5年間	5,000万円以上2億円以下
基盤研究(A)	一人又は複数の研究者が共同して行う独創的・先駆的な研究	3~5年間	2,000万円以上5,000万円以下
基盤研究(B)			500万円以上2,000万円以下
基盤研究(C)			500万円以下
挑戦的研究(開拓)	一人又は複数の研究者で組織する研究計画であって、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究 なお、(萌芽)については、探索的性質の強い、あるいは芽生え期の研究も対象とする	3~6年間	500万円以上2,000万円以下
挑戦的研究(萌芽)		2~3年間	500万円以下
挑戦的萌芽研究	一人又は複数の研究者で組織する研究であって、独創的な発想に基づく、挑戦的で高い目標設定を掲げた芽生え期の研究	1~3年間	500万円以下
若手研究	博士の学位取得後8年未満の研究者(博士の学位を取得見込みの者及び博士の学位を取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる者を含む。)が一人で行う研究	2~5年間	500万円以下
若手研究(A)	39歳以下の研究者が一人で行う研究 【平成30(2018)年度公募以降「基盤研究」に統合し廃止】	2~4年間	500万円以上3,000万円以下
若手研究(B)	39歳以下の研究者が一人で行う研究 【平成30(2018)年度公募以降「若手研究」に改称】	2~4年間	500万円以下
研究活動スタート支援	研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等の取得又は未就学児の養育から復帰する研究者等が一人で行う研究	1~2年間	300万円以下(研究期間が1年の場合は150万円以下)
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	複数の日本側研究者と海外の研究機関に所属する研究者との国際共同研究。学術研究の発展とともに、国際共同研究の基盤の構築や更なる強化、国際的に活躍できる研究者の養成も目指す。 【令和5(2023)年度公募以降「国際共同研究強化(B)」から「海外連携研究」に改称】	3~6年間	2,000万円以下

3-1-3 採択率

●新規採択率の推移



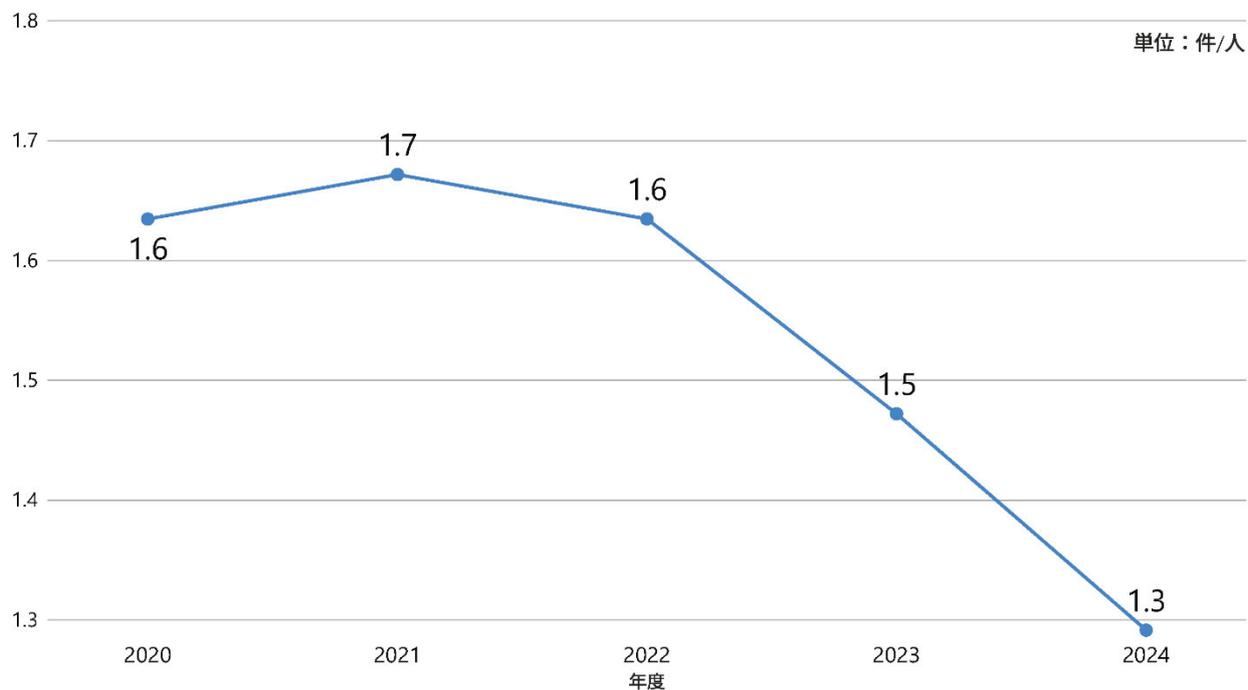
※注：順位は新規応募件数が 50 件以上の研究機関を分析対象とした研究機関別の採択率による

日本学術振興会「研究機関別配分状況」2016 年度～2024 年度をもとに作成
 (https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html)

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
東京外国語大学	50.6%	51.6%	52.8%	50.0%	46.7%	43.1%	37.9%	37.6%	38.8%
文科系大学平均	36.8%	40.3%	37.1%	44.8%	42.7%	42.0%	35.1%	40.5%	36.7%
国立大学平均	26.9%	26.2%	25.4%	29.3%	27.9%	29.5%	29.5%	27.7%	27.7%

3-1-4 科研費保有数

● 教員一人当たりの科研費保有数の推移



項目名/年度	単位	2020	2021	2022	2023	2024
教員一人当たりの科研費保有数	件/人	1.6	1.7	1.6	1.5	1.3
代表課題数及び分担課題数	件	353	356	353	312	275
常勤教員数	人	216	213	216	212	213

3-1-5 2024年度 実施課題一覧

●学術変革領域研究(A)

イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	黒木 英充	イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築：世界の分断をのりこえる戦略知の創造	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	野田 仁	イスラームの知の変換	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	黒木 英充	移民・難民とコミュニティ形成	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	近藤 信彰	イスラーム共同体の理念と国家体系	R2	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	特別研究員(PD)	沼田 彩誉子	日本・満洲・朝鮮半島生まれタタル移民のコネクティビティを巡る語りの研究	R5	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	太田 絵里奈 (塚田絵里奈)	14～16世紀アラブ都市エリート間の名目的コネクティビティの可視化分析	R5	R6
学術変革領域研究(A)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	井堂 有子	有事と食糧—中東・北アフリカにおいて試されるコネクティビティと信頼構築	R5	R6

●思想、芸術およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	高尾 賢一郎	世俗化と風紀に関する宗教・地域間比較：一神教社会を中心に	R4	R7
基盤研究(C)	世界言語社会教育センター	講師	竹田 恵子	ポストフェミニズム下における現代美術の学際的分析	R3	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	名誉教授	八木 久美子	イスラームと世俗主義に関する再検討：「アラブの春」後の「市民国家」論を手掛かりに	R6	R10
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	岡本 圭史	現代アフリカ都市のキリスト教とモダニティをめぐる宗教人類学的研究	R6	R8
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	神田 惟	ペルシア語文化圏における動物寓意譚受容史：『カリラとディムナ』挿絵入写本の研究	R5	R8
研究活動スタート支援	世界言語社会教育センター	講師	入江 哲朗	1890年代前後における社会有機体説のアメリカ化の思想史的解明	R5	R6
研究活動スタート支援	世界言語社会教育センター	講師	井口 俊	19世紀中葉のフランスにおけるサロン戯画研究—イメージとテキストの関係を中心に	R6	R7
国際共同研究加速基金(海外連携研究)	大学院総合国際学研究院	教授	中山 智香子	Lives Matter in Africa: Toward a Collaboration for 'Global South'	R6	R9

●文学、言語学およびその関連分野

1 文学

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	名誉教授 (研究員)	小田 淳一	ジョゼフ＝シャルル・マルドリユス遺贈未公開手稿カルネの翻刻と分析	R2	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	久野 量一	ラテンアメリカ文学における冷戦と東アジアに関する研究	R4	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	武田 千香	アフロブラジル文学研究―「アフリカ」という言説的实践―	R6	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	山口 裕之	ドイツ翻訳思想史とドイツ思想史におけるナショナリズム的特質との関係をめぐる研究	R6	R9
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	岡田 知子	1980年代社会主義政権下のカンボジアにおける地下写本小説に関する総合的研究	R6	R8
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	細田 和江	文芸翻訳のアクティヴィズム：イスラエルにおけるアラブ文学の統合ストラテジー	R6	R10
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	教授	佐々木 あや乃	ヘルシア語神秘主義叙事詩『精神的マスナヴィー』のデータベース化によるテキスト研究	R6	R8
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	邵 丹	再創造としての文学翻訳―藤本和子論	R5	R7

2 言語学

・アジア

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	澤田 英夫	ビルマの少数民族言語に関する類型的・系統的俯瞰像の構築	R2	R6
基盤研究(B)	大学院総合国際学研究院	教授	風間 伸次郎	アルタイ諸言語の文法の総合的研究	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	児倉 徳和	「主語卓立」対「主題卓立」類型論の再構築	R6	R8
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	塩原 朝子	パラレルコーパスに基づくマレー語変種にみられる「一致」の発達についての研究	R2	R6
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	益子 幸江	東南アジアの諸言語における韻と語構成から見たリズムの形成について	R5	R7
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	峰岸 真琴	東南アジア大陸部の孤立語における「時の表現」に関する研究	R5	R7
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	吉村 大樹	アゼルバイジャン語における二種類の疑問表現の形式・機能の研究	R6	R8
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	倉部 慶太	ジンポー語口承資料の資源化に関する研究	R6	R9
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	井上 史雄	公用語近代史の社会言語学的研究	R6	R8
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	安達 真弓	在日ベトナム系「コミュニティ」の再定義：居住地域の言語景観から考える	R4	R8
若手研究	世界言語社会教育センター	准教授	山田 洋平	モンゴル語族の諸言語の自然談話データに基づく記述研究	R4	R8
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	特別研究員(PD)	富岡 裕	研究者と話者集団の協働に基づく言語復興に関する研究ーアジアの消滅危機言語を例に	R5	R7
挑戦的研究(萌芽)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	山越 康裕	長野県上田市八日堂の蘇民将来符頒布習俗を題材とした言語ドキュメンテーション	R6	R8

・ヨーロッパおよびアメリカ

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(C)	世界言語社会教育センター	講師	水沼 修	ポルトガル語を中心とするロマンス諸語における口語の歴史的推移について	R5	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	大谷 直輝	言語使用から創発する言語知識のありようを探る：英語の構文の変化・変種・変異の分析	R5	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	准教授	内原 洋人	トラバネク語諸方言のドキュメンテーション	R6	R8
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	特別研究員(PD)	岩崎 加奈絵	ハワイ語における「視点」の役割に関する記述的研究：空間表現を中心に	R5	R9
若手研究	世界言語社会教育センター	講師	土肥 篤	イタリア語文法記述と言語観に関する学説的研究	R6	R8
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	大学院総合国際学研究院	准教授	大谷 直輝	認知・社会言語学の理論的枠組みの精緻化と方法論の構築	R5	R7

・アフリカおよび地域横断

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学研究院	教授	中川 裕	言語音の多様性の外延の理解拡大：3基軸データによるカラハリ言語帯の音韻類型論	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	山越 康裕	「文」の規定にかんする記述的研究	R4	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	准教授	品川 大輔	パラメーター運動に基づくバントゥ諸語類型論：多様性と普遍性の原理的理解に向けて	R5	R9
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	熊切 拓	アラビア語チュニス方言における語りの技法と文法	R4	R7
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	古本 真	ザンジバルのスワヒリ語諸方言の歴史言語学的研究	R6	R10
挑戦的研究(開拓)	大学院総合国際学研究院	教授	中川 裕	カラハリ狩猟採集民の持続可能な識字活動の基盤	R4	R8

●歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	伊東 剛史	危機の時代の感情史：感情創発と社会変動の関係を理解するための統合的モデルの構築	R5	R8
基盤研究(B)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	教授	石川 博樹	第2次イタリア・エチオピア戦争をめぐる人種・民族問題の研究	R3	R6
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	黒沢 直俊	文禄・慶長の役（1592-1598）に関するヨーロッパ文書の文献言語学的・歴史学的研究	R5	R8
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	特任准教授	ロッシヤデソウザ ルシオマヌエル	The first Asian/Japanese communities in the Hapsburg Empire (1560-1770)	R4	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	千葉 敏之	歴史的ロタリングアの堆積構造とオットー朝宮廷の統治実践	R4	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	芹生 尚子	軍事と男性性の関係をめぐる基礎的研究－啓蒙の世紀フランスにおける軍隊社会の諸相	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	久米 順子	中世イベリア世界の多文化共生再考：アルフォンソ10世賢王時代に関する学際的研究	R4	R6
基盤研究(C)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	教授	高松 洋一	18世紀オスマン朝における図書館蔵書の形成：マフムト1世時代(1730-54)を中心として	R5	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	木村 暁	トルキスタンと中央アジアの概念的接合と共振に関する歴史学的研究	R6	R10
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	巽 由樹子	ロシア帝国の翻訳出版：19世紀におけるその流通と情報伝達の構造変化の考察	R6	R10
若手研究	世界言語社会教育 センター	講師	大鳥 由香子	19世紀末から1920年代半ばの米国国境における児童保護と移民規制	R4	R7
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	助教	太田 絵里奈（塚田 絵里奈）	マムルーク朝後期人名録のデジタル解析に基づく文民エリートの関係構築	R5	R9
若手研究	世界言語社会教育 センター	特任講師	古川 高子	社会的自由主義時代オーストリアの山岳ツーリズムに関する社会構造的な研究	R5	R8
国際共同研究加速基金（海外連携研究）	大学院総合国際学 研究院	教授	伊東 剛史	国際共同研究による動物園史料アーカイブの構築：「人と動物の関係史」の新機軸	R5	R8

●地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	床呂 郁哉	もの人類学的研究—技芸複合の視点から	R2	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	西井 凉子	死の人類学再考：アフェクト/情動論による「現実」への人類学的手法による探究	R3	R7
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	土佐 桂子	実践としての民主主義：ミャンマーにおける「贈与のネットワーク」の可能性	R4	R7
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	椎野 若菜	現代東部アフリカ社会をゆるがすセクシュアリティ・結婚の変容とシングル化	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学研究院	研究員	上村 明	モンゴル国西部の音の世界と声の技術：アルタイの山の主といかに交信するか	R4	R7
基盤研究(C)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	吉田 優貴 (古川優貴)	ケニア・ナンディ社会におけるキリスト教的価値観と伝統的人間観に基づく聾/聴者の共生	R6	R8
若手研究	アジア・アフリカ言語文化研究所	助教	村津 蘭	アフリカの呪術をめぐる情動の研究—マルチモーダル・アプローチによる	R5	R9
若手研究	大学院総合国際学研究院	研究員	金 理花	1950-80年代在日朝鮮人の民族音楽：冷戦下に誕生したディアスポラ文化	R5	R7
若手研究	現代アフリカ地域研究センター	特任研究員	宮本 佳和	祖先の土地の生成に関する人類学的研究—ナミビア牧畜社会の伝統的権威と国家	R5	R8
挑戦的研究 (萌芽)	アジア・アフリカ言語文化研究所	研究員	高尾 賢一郎	ペルシャ湾岸ユダヤ教徒を事例とした現代イスラーム社会における寛容・共生論の展開	R5	R7

● 政治学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	武内 進一	アフリカ国家論の再構築—農村からの視点	R3	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	中山 裕美	生命科学技術による国際秩序変容の分析：生体情報を用いた移民管理の普及を事例として	R3	R6
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	若松 邦弘	政党支持の再編成と農村の政治—イギリス政治における新たな対立図式の起源	R5	R8
基盤研究(C)	現代アフリカ地域 研究センター	研究員	大石 晃史	紛争の拡散ダイナミクス：感染症モデルを用いたネットワーク科学的アプローチ	R5	R8
若手研究	大学院総合国際学 研究院	特別研究員 (RPD)	大平 和希子	中国アフリカ関係への新たな視座：中国企業と伝統的権威の関係性に着目して	R6	R9
国際共同研究加速基金（国 際共同研究強化(B)）	大学院総合国際学 研究院	教授	松永 泰行	国家・政治と宗教的ナショナリズム：比較の視座におけるイランの西部国境地域	R3	R6
国際共同研究加速基金（海 外連携研究）	大学院総合国際学 研究院	教授	武内 進一	アフリカ国家建設の比較研究：担い手、手法、成果	R6	R9

● 教育学およびその関連分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	特任教授	根岸 雅史	CEFR-Jに基づくCAN-DOタスク中心の教授と評価に関する総合的研究	R2	R6
基盤研究(A)	その他部局等	名誉教授	芝野 耕司	大規模日本語定型表現抽出と構造分析による帰納的文法再構築及び日本語教育への応用	R2	R6
基盤研究(A)	大学院総合国際学 研究院	教授	投野 由紀夫	CEFR-J 準拠多言語教育統合環境の構築と実践	R4	R8
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	准教授	布川 あゆみ	ドイツにおける学校の終日化を問い直す—難民の子どもの教育保障・ケアに着目して	R6	R9
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	准教授	小島 祥美	日本語指導が必要な高校生に対する公正な評価と指導体制の在り方	R6	R8
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	研究員	谷口 晴香	寛容な社会性をもつ二ホンザルの離乳期の育児：子どもの中で子を育てる	R3	R6
研究活動スタート支援	世界言語社会教育 センター	講師	清田 顕子	専門内容を英語で議論する第二言語インタラク ション能力の発達プロセス解明	R6	R7

●その他の分野

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	准教授	望月 源	大規模字幕コーパスによるコミュニケーション能力重視のテーラーメイド言語教材開発	R6	R10
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	内山 直子	グローバル・バリューチェーンとメキシコ経済成長のパラドックスに関する実証分析	R4	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	田島 充士	他者との感情的葛藤を解消し対話を促進する教育：カウンセラー型リーダーの養成	R5	R7
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	准教授	川本 智史	近代オスマン帝国の都市空間形成についての基礎的研究	R6	R10
若手研究	世界言語社会教育 センター	講師	梁 英聖	日英イミグレーションレジームの比較社会学	R5	R7

●分野横断：言語教育

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	大学院国際日本学 研究院	教授	鈴木 智美	辞書サイト・アプリ開発に資する質の高い日本語 例文バンクの構築とその応用研究	R3	R6
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	高島 英幸	小学校プロジェクト型外国語教育における練習か ら言語活動までの可視化と評価	R3	R7
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	教授	吉富 朝子	CEFR-Jに準拠した英語スピーキング能力の指 導・評価システムの拡充	R3	R6
基盤研究(B)	大学院国際日本学 研究院	教授	伊集院 郁子	日本語アカデミック・ライティングの学習および 教育を支援するポータルサイトの構築	R4	R8
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	准教授	野元 裕樹	マレー・インドネシア語における文法習得難易度 解明のための容認性コース開発	R5	R8
基盤研究(C)	大学院国際日本学 研究院	教授	大津 友美	職場における架け橋人材のコミュニケーションの 研究	R4	R7
基盤研究(C)	大学院国際日本学 研究院	教授	中井 陽子	会話データによるインターアクションの問題分析 と運用能力育成のための教材開発	R5	R7
基盤研究(C)	その他部局等	名誉教授	宇佐美 まゆみ	「共同構築型多機能データベース」による自然会 話教材の高度共有化と共同体の創成	R6	R8
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	特任講師	沖本 与子	日本語学習者と日本語教師のための適応型他動 詞学習支援システムの開発	R6	R8
若手研究	大学院国際日本学 研究院	研究員	WANG J u e i C h i	第二言語聴解における理解構築過程に関する研究	R5	R7
若手研究	世界言語社会教育 センター	准教授	嶋原 耕一	DLAの相互行為分析—児童生徒の能力がいかにかに引 き出されているのかに注目して—	R5	R9
若手研究	大学院国際日本学 研究院	研究員	李 奎台	日本語学習者のキャリア形成に関する研究	R6	R10

●分野横断：地域研究

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	教授	日下 渉	東南アジアにおける道德政治の光と影——新興中 間層の政治意識と自由民主主義の動揺	R3	R6
基盤研究(B)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	准教授	小倉 智史	ヒマラヤ西部におけるチベット系ムスリムの総合 的研究	R4	R7
基盤研究(B)	その他部局等	名誉教授	粟屋 利江	「感情」の視角から南アジア研究を再考する	R4	R7
基盤研究(B)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	准教授	後藤 絵美	現代の多様化と多様性尊重をめぐるムスリム・コ ミュニティの課題とその解決方法の研究	R6	R9
基盤研究(B)	大学院総合国際学 研究院	教授	澤田 ゆかり	中国における社会保障のDX：効率化とアウト リーチが内包する論理とリスク	R6	R8
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	准教授	三代川 寛子	コプト正教会のアフリカ宣教活動とその影響につ いての総合的研究	R3	R7
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	左右田 直規	政治変動期の立憲君主制と民主主義—マレーシア 国王の政治権力をめぐる考察	R5	R7
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	准教授	登利谷 正人	アフガニスタン・パキスタン境域における政治・ 社会運動の歴史的動態に関する研究	R6	R9
基盤研究(C)	アジア・アフリカ 言語文化研究所	研究員	井堂 有子	米国PL480と中東・アフリカ——穀物輸入依存の 歴史的起源に関する政治経済学的研究	R6	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	大石 高典	カメルーン東南部の多民族社会における人口・土 地利用・森林資源利用の長期動態	R6	R8
基盤研究(C)	世界言語社会教育 センター	教授	萩尾 生	スペインの自治州の対外活動政策比較研究：バス クとナバーラの事例を中心に	R6	R8
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	教授	坂井 真紀子	グローバル化する現代アフリカにおけるローカル 市場の社会学的研究	R6	R9
基盤研究(C)	大学院総合国際学 研究院	准教授	中瀬 一恵（出町一 恵）	アフリカ食料ネットワークへの国際穀物価格の影 響に関する研究	R6	R8
若手研究	世界言語社会教育 センター	講師	金 悠進	ポピュラー音楽と国軍の関係からみる現代インド ネシアの文化と民主政治	R3	R6
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	研究員	川添 達朗	南九州における関係人口創出のインテンシティと 生物多様性の関連	R4	R6
若手研究	世界言語社会教育 センター	准教授	小田 なら	ベトナムの「医士」—近代医療の制度拡充におけ る専門職の歴史的研究	R5	R9
若手研究	アジア・アフリカ 言語文化研究所	研究員	臼杵 悠	中東非産油国における親族間送金・経済格差に関 する総合的研究：ヨルダンを事例に	R5	R7
若手研究	世界言語社会教育 センター	講師	片岡 真輝	フィジーの植民地記憶と国際的な記憶のトレンド に関する基礎的研究	R6	R10
若手研究	大学院総合国際学 研究院	特任研究員	神代 ちひろ	アフリカにおける金融包摂が社会関係にもたらす 影響	R6	R10

●分野横断：その他

研究種目名	部局名	職名	氏名	研究課題名	採択年度	終了年度
基盤研究(B)	アジア・アフリカ言語文化研究所	教授	星 泉	フィールドデータと文献資料をつなぐ「チベット語民俗語彙=用例データベース」の構築	R2	R6

※2025年現在本学に所属していない教員の職名については、本学所属当時の職名となっています。

○分類方法

新学術領域研究（研究領域提案型）、学術変革領域研究(A)はそのまま分類した。

それ以外の研究種目は、科学研究費助成事業「審査区分表」より引用し、中区分を軸に分類を行い、件数が多い場合は小区分、さらに多い場合は内容より判断し地域に細分化して分類を行った。

- ・基盤 S：審査区分が大区分のため、内容より判断し中区分に細分化
- ・基盤 A、挑戦的研究（開拓・萌芽）：審査区分が中区分のため、そのまま分類
- ・基盤 B,C、若手研究：審査区分が小区分のため、審査区分表に基づき中区分に振り直し
- ・その他の研究種目：審査区分や内容により中区分に分類

3-2 受託研究・共同研究・受託事業

※国立大学の文科系大学について

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の8区分に分類）を基に、⑤文科系大学の5大学間で比較を行う。

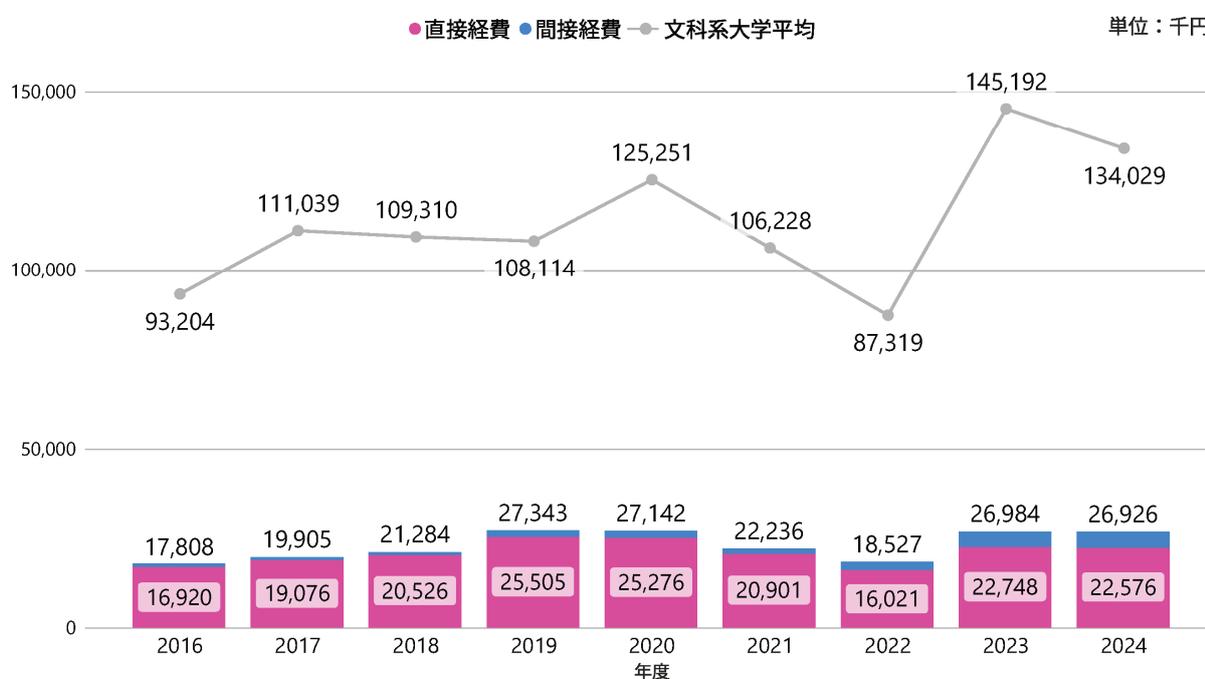
【⑤文科系大学 5大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

3-2-1 受託研究

受託研究とは、国立大学法人等において外部からの委託を受けて法人の業務として行う研究で、これに要する経費を原則として委託者が負担するものである。国立大学法人等は、契約に基づき当該研究の成果を委託者に報告する等の義務を負う。

（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和6年6月13日最終改訂）より）

（1） 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016 年度～2024 年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
直接経費	16,920	19,076	20,526	25,505	25,276	20,901	16,021	22,748	22,576
間接経費	888	829	758	1,838	1,866	1,335	2,506	4,236	4,350
合計	17,808	19,905	21,284	27,343	27,142	22,236	18,527	26,984	26,926
文科系大学平均	93,204	111,039	109,310	108,114	125,251	106,228	87,319	145,192	134,029

(2) 2024年度 受託研究の内訳

機関	研究テーマ
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構	グローバル地域研究推進事業
独立行政法人 日本学術振興会	課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
独立行政法人 日本学術振興会	二国間交流事業

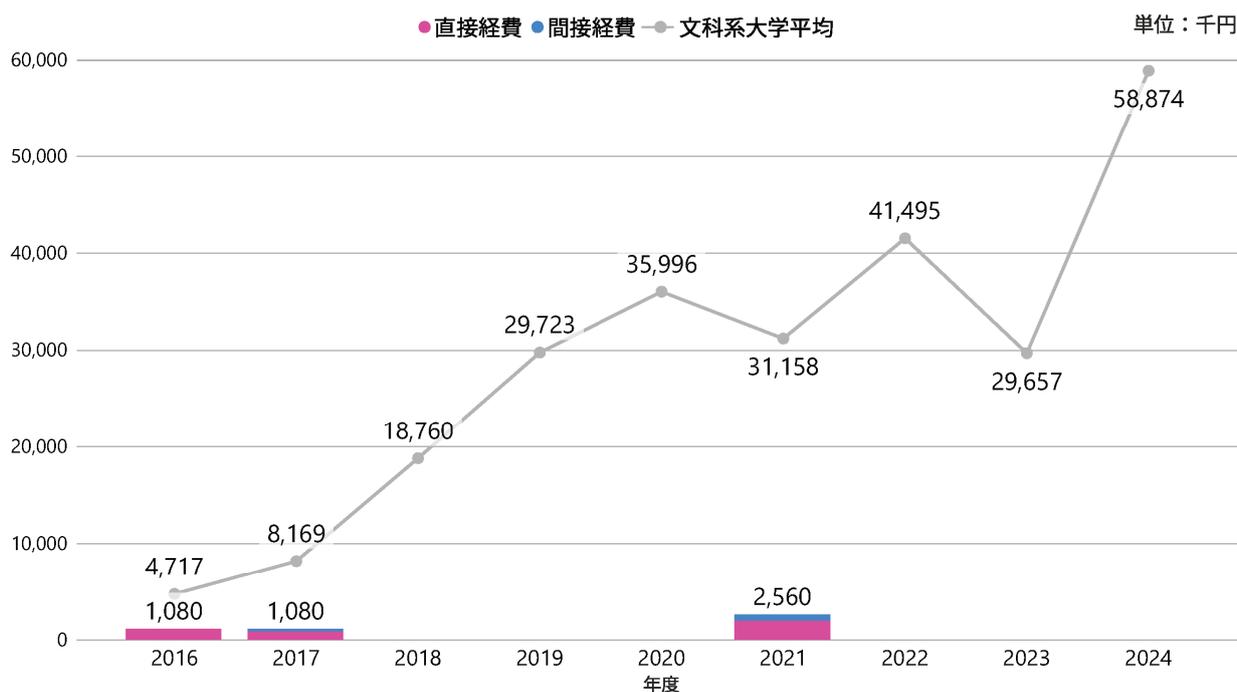
3-2-2 共同研究

共同研究とは、

- ①国立大学法人等において、民間等外部の機関から研究者及び研究経費等を受け入れて、当該法人の教員が民間等外部の機関の研究者と共通の課題について共同して行う研究
- ②国立大学法人等及び民間等外部の機関において共通の課題について分担して行う研究で、当該法人において、民間等外部の機関から研究者及び研究経費等、又は研究経費等を受け入れるもの
のことである。

（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和6年6月13日最終改訂）より）

（1） 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016 年度～2024 年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
直接経費	1,080	864	0	0	0	1,969	0	0	0
間接経費	0	216	0	0	0	591	0	0	0
合計	1,080	1,080	0	0	0	2,560	0	0	0
文科系大学平均	4,717	8,169	18,760	29,723	35,996	31,158	41,495	29,657	58,874

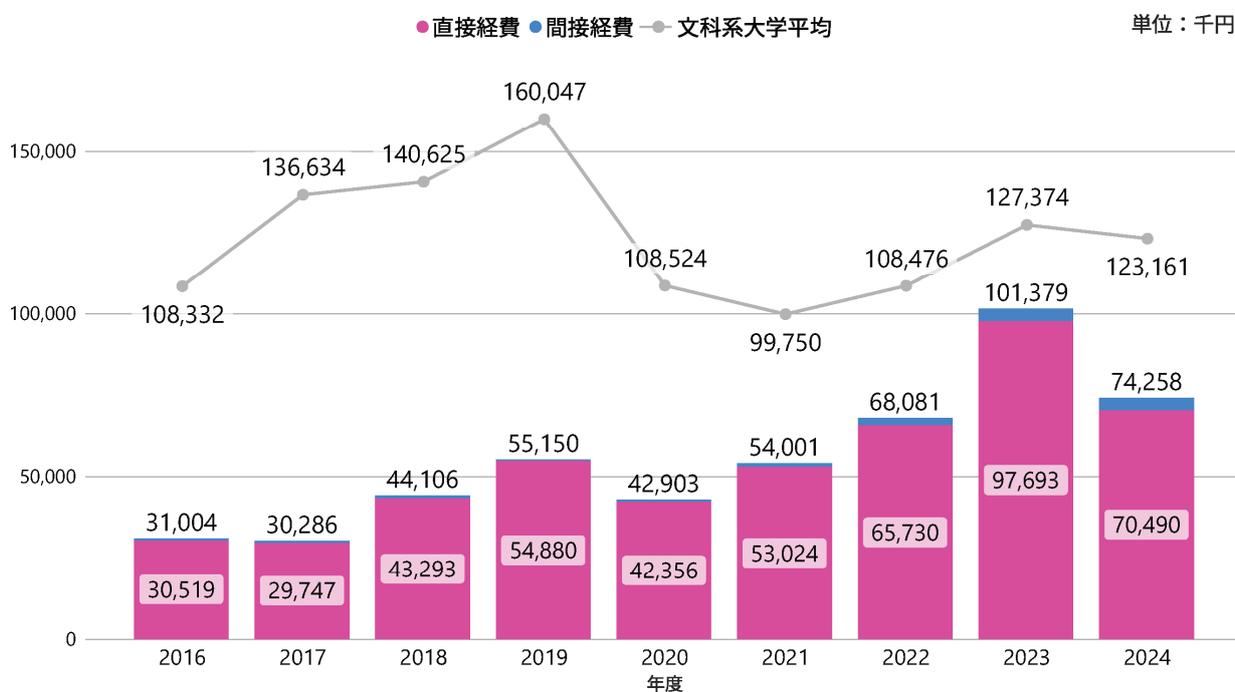
(2) 2024年度 共同研究の内訳

機関	研究テーマ
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構	複数の節足動物媒介熱帯感染症の流行分布予測のための衛星データ活用に関する研究

3-2-3 受託事業

受託事業とは、国立大学法人等において外部からの委託を受けて法人の業務として行う諸活動のうち、受託研究を除くものであり、これに要する経費を原則として委託者が負担するものである。国立大学法人等は、契約に基づき当該業務の成果を委託者に報告する等の義務を負う。（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（令和6年6月13日最終改訂）より）

(1) 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016年度～2024年度をもとに作成

単位：千円

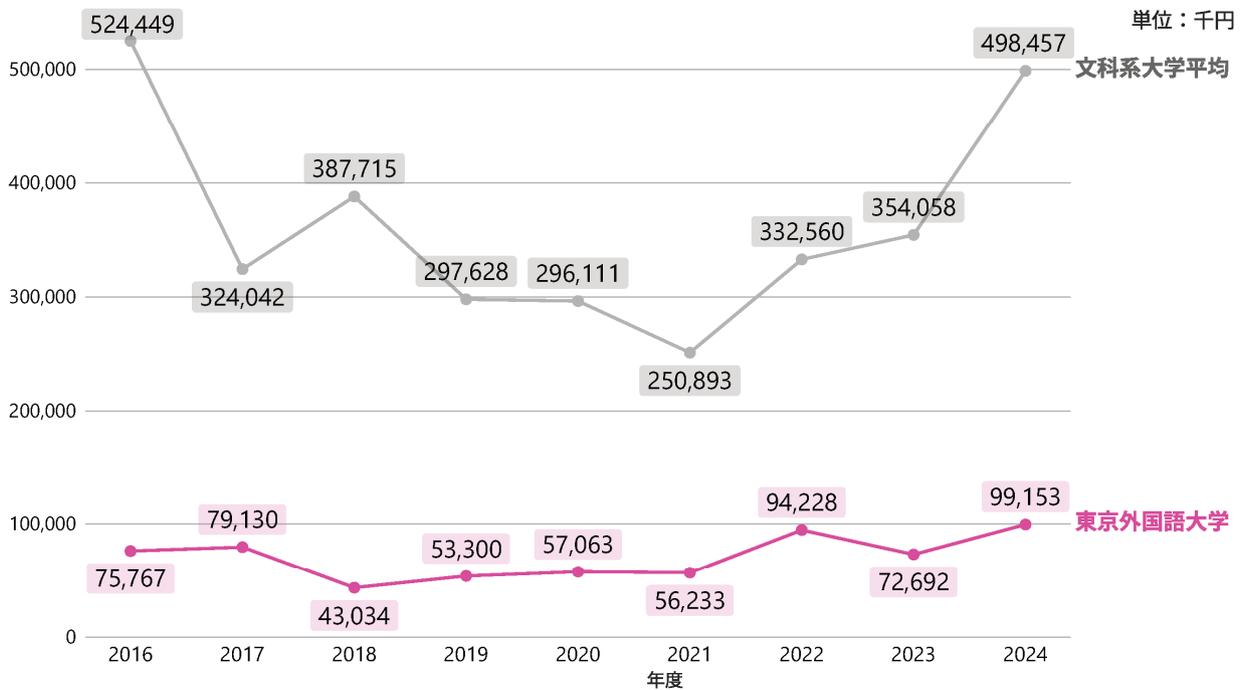
項目名/年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
直接経費	30,519	29,747	43,293	54,880	42,356	53,024	65,730	97,693	70,490
間接経費	485	539	813	270	547	977	2,351	3,686	3,768
合計	31,004	30,286	44,106	55,150	42,903	54,001	68,081	101,379	74,258
文科系大学平均	108,332	136,634	140,625	160,047	108,524	99,750	108,476	127,374	123,160

3-3 寄附金

※国立大学の文科系大学について 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構による各国立大学の財務関係情報の集計・分析に用いられる特性格別区分（86 大学を学部構成等の特性に応じて①旧帝国大学、②附属病院を有する総合大学、③附属病院を有しない総合大学、④理工系大学、⑤文科系大学、⑥医科系大学、⑦教育系大学、⑧大学院大学の 8 区分に分類）を基に、⑤ 文科系大学の 5 大学間で比較を行う。

【⑤文科系大学 5 大学】小樽商科大学、東京外国語大学、東京藝術大学、一橋大学、滋賀大学

(1) 受入金額の推移



各大学 財務諸表 2016 年度～2024 年度をもとに作成

単位：千円

項目名／年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
▲東京外国語大学	75,767	79,130	43,034	53,300	57,063	56,233	94,228	72,692	99,153
文科系大学平均	524,449	324,042	387,715	297,628	296,111	250,893	332,560	354,058	498,457

第4章 研究業績一覧

4-1 研究業績数の推移

学系	研究業績	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
人文科学系	査読付き論文	36	17	24	30
	学術図書	22	13	28	24
総合文系	査読付き論文	84	109	100	76
	学術図書	52	38	39	33
その他	査読付き論文	2	1	0	0
	学術図書	0	0	0	0

※人文科学系 = アジア・アフリカ言語文化研究所、総合文系 = 大学院総合国際学研究院、大学院国際日本学研究院、世界言語社会教育センター。

※研究業績については、国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の定義に基づく。

※「査読付き論文」については、以下により集計。

- A) 当該学系に所属する常勤教員が単独で書いた論文は「単著の論文」とし1編の論文を「1」と集計。
- B) 「単著の論文」以外については、複数の著者の中に当該学系に所属する常勤教員が著者として含まれている論文を「共著の論文」とし、1編の論文について学系ごとに「1」を上限として集計。
- C) 「査読付き論文」の範囲は、査読を受けて「学術論文誌」あるいは「国際会議会議録（プロシーディングス）」に掲載された論文とし、論文掲載時の年度でカウントする。なお、論文は原著論文のみとし、総説論文や症例報告は含まない。

※「学術図書」については、以下により集計。

- A) 単独の著書の場合、1冊を「1」と集計。
- B) 複数名による著書（共同著書）の場合、編集者の有無に応じて、以下により集計。
 - 1) 編集者がいない共同著書
各学系ごとに「1」を上限として学系別に集計。
 - 2) 編集者がいる共同著書
当該学系に所属する常勤教員が「編集者」となっている場合のみ集計。
- C) 複数名による編集（共同編集）の場合著書1冊について各学系ごとに「1」を上限として集計。
- D) A)～C)の集計方法で算出した数値の総数を記載。

2024年度 研究業績一覧

※国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の研究業績数の定義に基づく研究業績のみを掲載。

4-2 大学院総合国際学研究院

4-2-1 査読付き論文

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	青木 雅浩	モンゴル人民共和国からのリンチノの「排除」の政治的意義	몽골지역연구 (モンゴル地域研究)	9	2	83	99
2	Ariane Macalinga BORLONGAN	Language varieties and labor mobilities: Englishes in transnational work	AILA Review	37	1	79	97
3	Ariane Macalinga BORLONGAN	Multilingualism and mobility in the twenty-first century: An agenda for migration linguistics	AILA Review	37	1	1	9
4	五十嵐 孔一	語学研究におけるテキスト論ー韓国語学を中心にー	東京外国語大学論集		108	1	16
5	五十嵐 孔一	研究ノート『우리말본』の「씨갈」について(4)	朝鮮学報	263		1	50
6	伊東 剛史	エゾライチョウの学名の歴史の変遷に関する基礎研究	専修大学人文科学研究所月報		333	3	18
7	伊東 剛史	The Power and Performativity of Naming: A Natural and Cultural History of the Mikado Pheasant in Early Twentieth-century Taiwan and Beyond	Historical Studies in the Natural Sciences	54	2	157	186
8	上田 広美	クメール語の時の表現ー「突然」を表す場合	東京外国語大学論集		109	37	50
9	内原 洋人	トラパネク語の声調拡張と声調有標性	音声研究	28	3	123	132
10	内原 洋人	Cherokee s-preaspiration at the phonetics-phonology interface	Asian and African Languages and Linguistics supplement	4		21	31
11	内山 直子	2024年メキシコ大統領選挙とAMLO政権6年間の功罪ーシェインバウム新政権が直面する課題とは	ラテンアメリカ・レポート	42	1	17	31
12	大川 正彦	恐怖と痛みを方法とすること：ジュディス・シユクラーの〈恐怖のリベラリズムの思想圏〉にむかって	クアドランテ	27			
13	大谷 直輝	深層学習を用いた構文文法の実証的な研究の可能性を探るーbetter off構文を例にしてー	言語研究		166	59	86

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
14	小野寺 拓也	一般向けに歴史を書くことの困難—『検証 ナチスは『良いこと』をしたのか?』が問題にしたこと	歴史学研究		1058	37	42
15	TIPTIEMPON G Kosit	Speed up the good deeds: new-normal Thailand and linguistic construction of Buddhist 'Dana' giving through a practice of 'online merit-making'	Cogent Arts & Humanities				
16	TIPTIEMPON G Kosit	Your lords, not mine: Buddhist-Christian encounter and the language of directive in the 'Kitchanukit'	Cogent Arts & Humanities	11	1		
17	澤田 ゆかり	書評：小栗宏太『香港残響——危機の時代のポピュラー文化』	『クアドランテ』		27	33	36
18	澤田 ゆかり	書評：周其仁著『現実世界と対話する経済学--所有権、人的資本、市場化改革から読み解く中国経済』	現代中国研究	53		35	41
19	SHEIKH Tariq	戦後の日印知的交流：オンノダシヨシコル・ラエの紀行文と第29回国際ペンクラブ大会をめぐる	ベンガル研究		2	1	4
20	篠田 英朗	縮小するPKO・援助活動とパートナーシップ国際平和活動の変容～ソマリアの事例に着目して～	国際関係論叢	13	2		
21	篠田 英朗	Beyond the War on Terror against the Ethnic Conflicts	Gandhi Marg	46	1		
22	鈴木 美弥子	汎用的原材料の欠陥について - 茶のしずく石けん訴訟	国際関係論叢	13	2	37	68
23	鈴木 玲子	ラオ語の/siʔ/に関する考察	語学研究所論集	29		32	47
24	武内 進一	「グローバルサウス時代のアフリカはどこに向かうか」	『世界経済評論』	68	5	52	60
25	武内 進一	「アフリカ諸国の国連投票行動——ロシア・ウクライナ戦争をめぐる」	国際政治		216	128	142
26	武内 進一	Exploring actors' collaborations and involvement in the Namibian learner pregnancy policy	Frontiers in Education				
27	武田 千香	「キロンボとアフロブラジル文学 カルロス・ジ・アスンソンとオリヴェイラ・シウヴェイラの詩を通して」	総合文化研究	28		65	92
28	田島 充士	正解主義に抗うボーカロイドアート：ボカロP・r-906と考える多文化共生を拓く対話の可能性	総合文化研究	28		93	117
29	田島 充士	Why criticisms liberate partners' views, not threaten their faces? : Bakhtin's views on dialogue and love	ISCAR (The International Society of Cultural-historical Activity Research) 2024 abstract book			344	346
30	田島 充士	An educational program addressing tense intercultural communication between Japanese and Chinese students: A Bakhtinian perspective on dialogue and love	Dialogic Pedagogy	13	1	PLC 1	PLC 20
31	投野 由紀夫	Developing and calibrating "Can do" descriptors for dictionary use by EFL learners using the Rasch model	Dictionary Use and Dictionary Teaching New Challenges in a Multilingual, Digital and Global World	166		135	170

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ	
32	内藤 稔	日本における「通訳」という職業に対する認識の変化ー 2つの東京オリンピックの間の期間ー	通訳翻訳研究		24	213	231	
33	南 潤珍	日本の大学における韓国語教育及び韓国学の教育-東京 外国語大学の朝鮮語専攻を中心にー(原題朝鮮語)	臺灣韓國學研究	2		5	34	
34	西畑 香里	「日本における「通訳」という職業に対する認識の変化 ー 2つの東京オリンピックの間の期間ー」	通訳翻訳研究		24	213	231	
35	野元 裕樹	The Social Cognition Parallax Interview Corpus (SCOPIIC) Project Guidelines	Language Documentation & Conservation Special Publication No. 12 Social Cognition Parallax Interview			163	237	
36	野元 裕樹	Syntactic embedding or parataxis? Corpus-based typology of complementation in language use	Special issue of Language Documentation and Conservation No. 12 Social Cognition Parallax Interview	12		126	162	
37	野元 裕樹	Masalah teknologi dan isu sosial berkaitan penggunaan ChatGPT dalam bahasa Melayu	RENTAS: Jurnal Bahasa, Sastra dan Budaya	3		1	22	
38	藤縄 康弘	長さか？ 張りか？ を越えてードイツ語主母音の非強勢 位置における音節的振舞いに着目してー	語学研究所論集		29	1	31	
39	藤縄 康弘	ドイツ語にアスペクトは存在するか？ 時制の範疇化と いう観点からの一考察	ドイツ文学論集		57	5	22	
40	松隈 潤	Research on Extraterritorial Obligations regarding the Right to Food	TOKYO FUCHU INTERNATIONAL STUDIES JOURNAL	13	2	1	14	
41	丸山 空大	自己の翻訳可能性をめぐる試論ー自分自身を説明でき ない主体についてのタラル・アサドと島蘭進の議論を結 ぶ	総合文化研究		28	21	37	
42	丸山 空大	ポスト宗教概念批判論の時代にクリフォード・ギアツの宗教 論を再訪する	宗教研究		98	3	433	458
43	丸山 空大	A Jew becomes a Jew? Franz Rosenzweig and Isaac Breuer in Comparison	Rosenzweig Yearbook	10		93	110	
44	三宅 登之	使役構造からモダリティマーカーへー “不譲+V”の意 味と用法	東京外国語大学論集		109	19	35	
45	森田 耕司	Wybrane aspekty wielojęzyczności z powojennej tw órczości prozatorskiej Czesława Miłosza i jej recepja w Japonii	Prace Filologiczne, Tom okolicznościowy (2024)			273	282	
46	山本 恭裕	(in press) The interdental approximant in Kagayanen	Journal of Asian and African Studies					
47	山本 恭裕	(in press) Motion event descriptions in Ilocano.	Motion Event descriptions from a Cross- Linguistic Perspective , Vol.1. De Gruyter Mouton, 40 pages.			673	710	
48	若松 邦弘	新党とは何かーイギリス政治のよりよい安定に向けて	『生活経済政策』		324			

4-2-2 学術図書

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	青山 弘之	共著	『シリア・バアス党第3回中央委員会拡大大会合（2024年）詳解』	東京外国語大学
2	青山 弘之	単著	World Order from the People's Perspective in the Middle East: Quantitative Analysis of International Relations Perception and Cross-Border Mobility Experience and Awareness Based on Public Opinion Surveys.	Springer
3	伊東 剛史	単著	近代イギリスの動物史——歴史学のアニマル・ターン	名古屋大学出版会
4	内原 洋人	共編者(共編著者)	Constituency and Convergence in the Americas	Language Science Press
5	内山 直子	共訳	不平等のコスト：ラテンアメリカから世界への教訓と警告	東京外国語大学出版会
6	岡田 昭人	分担翻訳	Thoughts, Ideologies and Structures of Modern Education: Japan and the West	東京大学出版会
7	小野寺 拓也	共訳	史録 スターリングラード—歴史家が聞き取ったソ連将兵の証言	人文書院
8	日下 渉	共編者(共編著者)	"LGBT" Politics: Asian Perspectives	Trans Pacific Press
9	久野 量一	共編者(共編著者)	ラテンアメリカ文学を旅する58章	明石書店
10	久野 量一	単訳	ファン・ガブリエル・バスケス『歌、燃えあがる炎のために』	水声社
11	篠田 英朗	共編著	The Impacts of the Russo-Ukrainian War: Theoretical and Practical Explorations of Policy Agendas for Peace in Ukraine英語	Springer
12	篠田 英朗	単著	1. Partnership Peace Operations: UN and Regional Organizations in Multiple Layers of International Security	Routledge
13	武内 進一	編集	コンゴ民主共和国を知るための50章	明石書店
14	武内 進一	共訳	『名前を言わない戦争——終わらないコンゴ紛争』（武内進一監訳 大石晃史・阪本拓人・佐藤千鶴子訳）	白水社
15	田島 充士	監修	TAKT授業のデザイン：批判的対話がつむぐ笑顔の教室	福村出版
16	千葉 敏之	共著	世界の転換期を知る11章	山川出版社

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
17	西岡 あかね	編集	アヴァンギャルドとジェンダー	東京外国語大学出版会
18	前田 和泉	共著	「NHKラジオ まいにちロシア語」9月号	NHK出版
19	前田 和泉	共著	「NHKラジオ まいにちロシア語」8月号	NHK出版
20	前田 和泉	共著	「NHKラジオ まいにちロシア語」7月号	NHK出版
21	前田 和泉	共著	「NHKラジオ まいにちロシア語」6月号	NHK出版
22	前田 和泉	共著	「NHKラジオ まいにちロシア語」5月号	NHK出版

4-3 大学院国際日本学研究院

4-3-1 査読付き論文

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻号	開始ページ	終了ページ	
1	阿部 新	日本語韻律への注意には何が影響するか —イタリア・ロシア・中国・ベトナムの日本語学習者の「音楽経験」を比較した予備的研究—	ヨーロッパ日本語教育	27	561	566	
2	伊集院 郁子	日本語母語話者と日本語学習者の接続表現の比較—日本語・中国語・韓国語・英語を母語とする大学生の日本語作文を対象に—	国立国語研究所論集	27	95	113	
3	伊集院 郁子	日本語の習熟度と接続表現の使用に関する調査	早稲田日本語教育学	36	259	268	
4	木村 正美	“Common Ground of Democracy: Anticommunism in Allied-Occupied Japan”	Journal of Japanese Studies	50	2	353	380
5	工藤 嘉名子	中級日本語オンデマンド教材「ここから」の開発とその活用事例	東京外国語大学国際日本学研究	5	164	182	
6	菅長 理恵	俊成の「歌の道」考	樹間爽風	4	56	59	
7	鈴木 智美	日本語母語話者の意見表明に発話に見られる「とっていて」「とっているの」	東京外国語大学国際日本学研究	5	109	130	
8	鈴木 智美	「生成AIに日本語教育に資する例文作成は可能か—ChatGPT(GPT-3.5, GPT-4.0)と「Jreibun」プロジェクトによる作成例文およびその英訳を比較する—」	『東京外国語大学論集』	108	47	60	
9	鈴木 美加	「日本語上級学習者作成短文から「中級文型」の処理レベルを考える—処理可能性理論を参考に—」	東京外国語大学国際日本学研究	5	155	163	
10	中井 陽子	日英中友人三者会話の同一話題における聞き手行動の分析—会話データ分析の教材開発をめざして—	学苑 昭和女子大学紀要	978	67	81	
11	中井 陽子	国際共修科目「地域社会フィールドワーク」での学生の学び—日頃の「思い込み」を考え直すための協働活動—	東京外国語大学国際日本学研究	5	21	47	
12	中井 陽子	オンライン日中交流会における中国人学生の調整行動と日本語の習得過程—参加調整ストラテジーの使用の観点から—	国立国語研究所論集	28	111	125	
13	中井 陽子	TEM図による中国人日本語教師のやりがいを形成する要因の可視化—非母語話者日本語教師の養成と自己実現の支援に向けて—	大学日本語教員養成課程研究協議会論集	22	84	103	
14	中井 陽子	「話し合い」の研究論文の年代別動向—教育現場に活かす「話し合いの型」の提案—	早稲田日本語教育学	36	239	247	
15	花園 悟	沖縄首里方言における語頭声門破裂音の機能負担量	沖縄文化	126	18	31	
16	PORTER John Patrick	明治初期東京における貧民救済—統制と地域社会—芝会社を事例に—	歴史科学	258			
17	林 俊成	第二言語における生成型 AI (Large Language Models Generative AI) を活用した授業の試み: JFL を対象に	台湾日語教育學報		61	88	

4-3-2 学術図書

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	木村 正美	単著	Cultures of Modernity and the U.S.-Japan Cold War Alliance	Routledge
2	西原 大輔	編集	[書籍10] 一冊で読む 日本の現代詩200	笠間書院
3	HOLCA IRINA	編集	Japanese Literary Theories: An Anthology	Bloomsbury Publishing

4-4 世界言語社会教育センター

4-4-1 査読付き論文

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	青井 隼人	声調言語としての日本語—Clark (1987) の現代的価値—	方言の研究	10			
2	青井 隼人	Acoustic properties of glottalized consonants: A Pilot Study on the Ie Dialect of the Northern Ryukyuan Languages	Asian and African Languages and Linguistics, Supplement	4		1	15
3	片岡 真輝	インド系フィジー人のディアスポラ・アイデンティティと多人種共存の政治規範	クアドランテ	27		127	144
4	川本 渚凡	Developing illustrative “Can do” descriptors for dictionary use by foreign language learners	Lexicography	11	1	28	55
5	菊地 和也	Jumping on the bandwagon and off the Titanic: An experimental study of turnout in two-tier voting (link to arXiv)	European Journal of Political Economy	86			
6	小島 祥美	外国籍の子どもの就学義務化をめぐる議論の緊急性	ボランティア学研究		25	1	13
7	邵 丹	Cultural Transfer and the Re-representation of Reality: Barn Burning in Faulkner, Murakami, and Lee Chang-dong's Film	Synthesis			25	49
8	谷川 みらい	関西貿易社・五代友厚の活動とその困難	東京外国語大学国際日本学研究		5	1	20
9	萩尾 生	「バスク語を知っていることと使うこと—人権としての言語権擁護と継承財産としての言語」	『ことばと社会』		26	117	140
10	布川 あゆみ	Schulabsentismus – Perspektiven aus Japan und Deutschland; Ein Interview mit japanischen Bildungswissenschaftlern	Zeitschrift für Heilpädagogik	8		371	374
11	藤田 百子	「書く」コミュニケーションのための状況を踏まえた教材の開発—推薦状依頼メールの分析をもとに—	東京外国語大学論集				

4-4-2 学術図書

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	井口 俊	共訳	『エドゥアール・マネの思い出』	中央公論美術出版
2	古宮 路子	共訳	ウクライナからの声：戦争の中の国民と文学 講演集	埼玉大学教養学部 リベラル・アーツ叢書
3	Khaldoon HUSSIEN	編訳	木の祭り	東京外国語大学
4	Khaldoon HUSSIEN	編訳	大造じいさんとガン	東京外国語大学
5	布川 あゆみ	共著	「ドイツにおける中国系移民第2世代と中国語補習校：子どもの学びと親のかかわり」山本須美子（編）『ヨーロッパの中国系新移民第2世代：コミュニティ・社会統合・アイデンティティ』	明石書店
6	布川 あゆみ	共著	「ドイツ：コミュニティの形成と社会参加」山本須美子（編）『ヨーロッパの中国系新移民第2世代：コミュニティ・社会統合・アイデンティティ』	明石書店
7	布川 あゆみ	共著	「予防・介入の取り組みにみるドイツの早期離学対策－多職種連携に取り組むハンブルクを事例に」園山大祐（編）『若者たちが学び育つ場所－ヨーロッパの早期離学対策の現場から』	ナカニシヤ出版
8	古川 高子	単訳	【翻訳】ヤン＝ヴェルナー・ミュラー『恐怖と自由 ジュディス・シュクラーのリベラリズム論と21世紀の民主制』	みすず書房

4-5 アジア・アフリカ言語文化研究所

4-5-1 査読付き論文

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
1	安達 真弓	From truth to discourse marker: The case of that in Vietnamese, Special issue 'Discourse-pragmatic markers of (inter)subjective stance in Asian languages: With special focus on Chinese etymons'	Russian Journal of Linguistics	28	4	966	990
2	荒川 慎太郎	西夏語の「1tšhjaa」の文法化について	語学研究所論集		29		
3	石川 博樹	エチオピアのショア地方におけるインジェラの料理法の成立に関する歴史学研究	アフリカ研究	106		23	30
4	石川 博樹	『メネン皇后学校料理書』の内容とそのエチオピア食文化史上の意義	アフリカ研究	106		31	36
5	植田 尚樹	日本語母語話者による日本語の方言のイメージ—日本語母語話者を対象とした聴取調査から—	日本語音声コミュニケーション		13	20	39
6	植田 尚樹	モンゴル語の帯気性対立の母語話者による知覚—モンゴル語母語話者を対象とした知覚実験—	北洋大学紀要		4	3	19
7	植田 尚樹	The Phonetic Realization of Aspiration in Khalkha Mongolian: The Phonetic Contrast between Aspirated and Unaspirated Consonants Preceded by an Obstruent	Journal of Asian and African Studies, Supplement		4	7	20
8	倉部 慶太	ジンポー語の受動表現資料	東京外国語大学 語学研究所論集	29	22	1	9
9	倉部 慶太	ジンポー語の aspekt 資料	東京外国語大学 語学研究所論集	29	23	1	12
10	倉部 慶太	Manifestations of Jinghpaw influence among Rawang speakers	Asian Languages and Linguistics	4	2	273	290
11	倉部 慶太	Jinghpaw loanword typology: Is the Jinghpaw lexicon conservative or innovative?	Asian and African Languages and Linguistics	4	2	119	135
12	呉人 徳司	実義詞綴	中国大百科全書：語言文字分類（オンライン版）				
13	黒木 英充	フランスとシリア・レバノン—幾重にもアンビバレントな関係	日仏文化		94	80	91
14	黒沼 太一	Tombs and landscapes in a canyon of the al-Hajar mountains. Results of the surveys at WTN07 in the Tanūf District (North-Central Oman), 2022-2023	Proceedings of the Seminar for Arabian Studies	53		104	118
15	黒沼 太一	Petrographic and geochemical analyses of pottery from Wadi Tanuf, Oman: Approaching pottery production in south-eastern Arabia during the second and first millennia BCE	Archaeometry	2024	6	1	19
16	黒沼 太一	Millennial-Scale Transformations of Land Use in a Canyon in Southeast Arabia: Insights from Archaeological Investigations in Tanuf, North-Central Oman	Open Quaternary	11			
17	澤田 英夫	Mr. Lamaung Khao Hhao's memoir of his life (continued): From his employment until his retirement	Asian and African Languages and Linguistics (AALL)		19	211	240

No.	教員名	査読論文タイトル	誌名	巻	号	開始 ページ	終了 ページ
18	塩原 朝子	The Social Cognition Parallax Interview Corpus (SCOPIC) Project Guidelines	Language Documentation & Conservation Special Publication No. 12 Social Cognition Parallax			163	237
19	塩原 朝子	Syntactic embedding or parataxis? Corpus-based typology of complementation in language use	Special issue of Language Documentation and Conservation No. 12 Social Cognition Parallax Interview Corpus (SCOPIC)	12		126	162
20	塩原 朝子	The Story of Batu Langlelo, or Langlelo Stone: A Sumbawa Folktale	African Languages and Linguistics	15		187	209
21	品川 大輔	A Typological Overview of Lateral Fricatives in Southern Bantu Languages	Journal of Asian and African Studies, Supplement		4	69	80
22	品川 大輔	Introduction: The Phonetic Typology (PhonTyp) Project	Journal of Asian and African Studies, Supplement		4	1	5
23	須永 恵美子	Multilingual education in South Asia: at the intersection of policy and practice Multilingual education in South Asia: at the intersection of policy and practice , edited by Lina Adinolfi, Usree Bhattacharya, & Prem Phyak, Routledge, 2022, 190 pp., £130.00 (hardback)	Asian Studies Review			1	2
24	外川 昌彦	動物と人間の連続性を捉える視点—インドの猿と猿神から見た人類学的存在論と創発的特性としてのセクシュアリティ	『アジア・アフリカ言語文化研』	109		29	57
25	外川 昌彦	エリアーデのインド体験とインド先住民の巨石文化—アルカイック宗教論から人類の宗教史へ	宗教研究				
26	星 泉	チベット・ヒマラヤ地域における乳製品およびチーズの多様性を探る：語彙研究からのアプローチ	アジア・アフリカ言語文化研究 別冊 No. 05 チベット・ヒマラヤ 牧畜文化の諸相			9	41
27	山越 康裕	Shinekhen Buryat Texts Three Narratives Classified as “Domog”	アジア・アフリカの言語と言語学		19	105	123
28	山越 康裕	A Shinekhen Buryat Text : “A Liar Who Tells Seventy Lies”	北方言語研究		15	223	236
29	吉田 ゆか子	Impact of the COVID-19 Pandemic on the Balinese Masked Dance Theatre Topeng: A Study on Experiences of Performers and Mask Makers.	Proceedings of the 7th Symposium: The ICTM study group on performing arts of Southeast Asia			164	168
30	渡邊 己	Picking Blackberries: A Sliammon Text Told by Mary George	Asian and African Languages and Linguistics		19	165	185

4-5-2 学術図書

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
1	安達 真弓	共編者(共編著者)	シンポジウム「移動・境界・言語」論文集	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
2	緒方 しらべ	編集	Emergence of Paths in Africa: Considering elements of searching for a better life under social crisis	Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa
3	河合 香史	単著	社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
4	河合 香史	共著	社会性の起原と進化 始論：種と性を越えた比較研究のために	京都大学学術出版会
5	河合 香史	単著	公開シンポジウム「海外調査地開拓のすすめ」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
6	河合 香史	単著	ライフヒストリー：サルとヒトの誕生・成長・死	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
7	河合 香史	共著	フィールドサイエンス・コロキウム：ヒトを見るようにサルを見る	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
8	河合 香史	共著	ザ・フィールドワーク：129人のおどろき・とまどい・よろこびから広がる世界	京都大学学術出版会
9	児倉 徳和	共編者(共編著者)	シンポジウム「移動・境界・言語」論文集	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
10	後藤 絵美	解説	イスラームにおける女性とジェンダー——近代論争の歴史的根源〈増補版〉	法政大学出版局
11	後藤 絵美	共訳	アラブの女性解放論	法政大学出版局
12	近藤 信彰	単著	イスラームからつなぐ 5: 権力とネットワーク	東京大学出版会
13	澤田 英夫	編集	『ビルマの少数民族言語に関する類型的・系統的俯瞰像の構築に向けて』	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
14	澤田 英夫	共編者(共編著者)	Ethnolinguistic contact across the Indo-Myanmar-Southwestern China mountains	John Benjamins Publishing Company
15	椎野 若菜	共著	Situated Career Choices: Student Identities and Agencies for University Education in Uganda	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
16	椎野 若菜	共著	Between-ness in Contemporary African Sexualities: Traditions, Education, and Practices	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

No.	教員名	担当区分	書籍タイトル	出版社・発行元
17	塩原 朝子	共編者(共編著者)	Kui-Indonesian-English Dictionary	Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa (ILCAA) Tokyo University of Foreign Studies
18	品川 大輔	共編者(共編著者)	Crossroads for Phonetic Typology, Journal of Asian and African Studies, Supplement 4	ILCAA
19	品川 大輔	編集	Working Papers in African Linguistics (WoPAL) vol. 2	Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa
20	外川 昌彦	共編者(共編著者)	難民と共に暮らすーロヒンギャ難民とベンガル人住民との日々の経験 (ベンガル語)	University Press Limited
21	床呂 郁哉	共編者(共編著者)	Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia (Vol.4)	ILCAA, TUFS
22	星 泉	単訳	花と夢 (アジア文芸ライブラリー)	春秋社
23	星 泉	共編者(共編著者)	アジア・アフリカ言語文化研究 別冊 No. 05 チベット・ヒマラヤ 牧畜文化の諸相	アジア・アフリカ言語文化研究所
24	吉田 ゆか子	共編者(共編著者)	コロナ下での芸能実践一場とつながりのレジリエンス	春風社

(本件担当)

東京外国語大学研究協力課研究企画係

Tel: 042-330-5592

Mail: kenkyu-soumu@tufs.ac.jp